

2011年度 新入生入学時アンケート

工学院大学では、学生の皆さんにきめ細かくサービスを提供するために、さまざまなサポート活動を行っています。この入学時アンケート調査は、そのための基本になるものです。皆さんが入力した現在の意識や高校での学習状況は、今後の大学生活での個別指導や、各種支援のために役立つ大切な情報です。さほど時間はかかりませんので、ぜひ回答してください。

◆回答方法

この調査画面は、キューポートを最初に使う時に自動的に表示されます。回答終了後、[登録]ボタンを押してキューポートを一度ログアウトしてください。再びログインすれば、通常のキューポート画面が表示されます。

もし回答が途中で、「キューポート」の「アンケート・調査」メニューを選択すると下記の入力期間内であれば何度でも追加や修正ができます。入力期間終了後の入力や変更には、特別な手続きが必要です。

◆入力期間

2011年5月18日（水）～5月31日（火）

◆集計結果

アンケートを個人が特定できる状態で公表することはありませんが、集計結果については学内で閲覧できるようにする予定です。

公表する項目は、アンケートの質問項目の最後に★印のついている質問のみとなりますので、ご了承ください。

工学院大学 学生生活委員会

1. ■住まい・通学に関して

Q1.あなたの住まいは？（1つだけ選択）★

- (1) 自宅（八王子市内） (2) 自宅（八王子市外） (3) アパート（八王子市内）
(4) アパート（八王子市外） (5) 親類宅（八王子市内） (6) 親類宅（八王子市外）
(7) その他

2. Q2. Q1で「アパート」と回答した方へ

アパート選びはどのような方法でしたか？（1つだけ選択）

- (1) 大学の紹介 (2) 不動産屋 (3) インターネット
(4) その他（その他を選択した方は、(5)のその他の記述欄に記述してください）
(5) その他

3. Q 3. Q 2で「大学の紹介」以外を回答した方へ
大学の紹介以外でアパートを決めた理由はなんですか？（255文字以内で自由記入）
4. Q 4. 通学時間はどのくらいですか？（1つだけ選択）★
(1) 30分以内 (2) 1時間 (3) 1.5時間 (4) 2時間以上
5. Q 5. 通学に電車を利用していますか？（1つだけ選択）★
(1) している (2) していない (3) ときどき利用する
6. Q 6. Q 5で「している」と回答した方へ
現在通学している校舎へ行く際に、最後に下車する駅はどこですか？（1つだけ選択）★
(1) JR八王子駅 (2) 京王八王子駅 (3) JR西八王子駅 (4) JR新宿駅
(5) 京王新宿駅 (6) 小田急新宿駅 (7) 地下鉄の新宿校舎付近の駅
7. Q 7. Q 5で「している」と回答した方へ
駅から大学までどのような交通手段を利用していますか？（1つだけ選択）★
(1) バス (2) バイク (3) 自転車 (4) 徒歩
8. Q 8. Q 5で「していない」と回答した方へ
自宅／アパートから大学までどのような交通手段を利用していますか？（1つだけ選択）★
(1) バス (2) バイク (3) 自転車 (4) 徒歩
9. ■高校での学修状況について
Q 9. 高校で履修した数学の授業はどれですか？（複数選択）
(1) 数学基礎 (2) 数学Ⅰ (3) 数学Ⅱ (4) 数学Ⅲ
(5) 数学A (6) 数学B (7) 数学C
10. Q 10. 高校で履修した英語の授業はどれですか？（複数選択）
(1) 英語Ⅰ (2) 英語Ⅱ (3) リーディング (4) ライティング
(5) オーラルコミュニケーションⅠ (6) オーラルコミュニケーションⅡ (7) その他
11. Q 11. 高校で履修した物理の授業はどれですか？（複数選択）
(1) 物理Ⅰ (2) 物理Ⅱ (3) 「物理科目の授業」を受けていない (4) その他

12. Q12. 高校で履修した化学の授業はどれですか？（複数選択）
(1) 化学Ⅰ (2) 化学Ⅱ (3) 「化学科目の授業」を受けていない (4) その他
13. Q13. 高校で履修した情報の授業はどれですか？（複数選択）
(1) 情報A (2) 情報B (3) 情報C (4) 「情報科目の授業」を受けていない (5) その他
14. ■入学試験結果について
Q14. 本学入学を決めた理由は何ですか？（255文字以内で自由記入）
15. Q15. あなたが入学した学科の志望順位は？（1つだけ選択）
(1) 第一志望 (2) 第二志望 (3) 第三志望 (4) 第四志望 (5) それ以下
16. ■入学時点のIT環境について
Q16. 自宅にパソコンはありますか？（1つだけ選択）★
(1) 家族のものがある (2) 自分専用のものがある (3) ない
17. Q17. あなたがパソコンで操作できるソフトは？（複数選択）★
(1) Word (2) Excel (3) PowerPoint
18. Q18. 携帯電話を持っていますか？（また、どこのキャリアですか？）（主に使用する携帯電話を1つだけ選択）★
(1) Docomo (2) SoftBank (3) au (4) イーモバイル
(5) ウィルコム (6) 持っていない
19. Q19. インターネットに接続できますか？
(1) パソコンのみ (2) 携帯電話のみ (3) 両方接続可能 (4) どちらもできない
20. ■これからの大学生活について
Q20. 本学に入学して良かったですか？（1つだけ選択）★
(1) よかった (2) まあまあよい (3) 普通 (4) あまりよくない (5) 悪い
21. Q21. 大学生活で何を楽しみにしていますか？（複数選択）
(1) 授業、研究室 (2) 部活動、サークル (3) 一人暮らし (4) アルバイト (5) その他
22. Q22. 大学生活で不安なことは何ですか？（複数選択）
(1) 授業についていけるか (2) 友人関係 (3) 一人暮らし (4) その他

23. Q 2 3. 大学での目標は何ですか？（複数選択）★

- (1) 専門分野の知識・理解を深める
- (2) 社会に出てから活かせる能力を身につける
- (3) 資格試験などに合格する
- (4) 学生生活をエンジョイする
- (5) 友達を多く作る
- (6) 広い教養・見方を身につける
- (7) 将来の方向性を見つける
- (8) その他

24. ■最後に

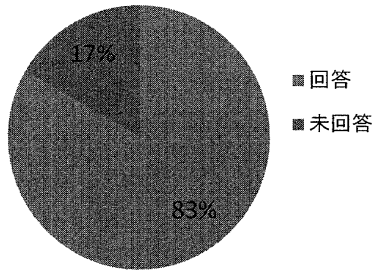
Q 2 4. 現在の夢や抱負を記入してください（255文字以内で自由記入）

以上

2011年度 新入生入学時アンケート集計結果

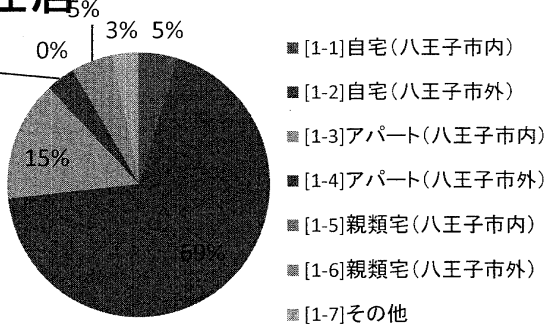
回答者数

回答者数	全体
回答	1134
未回答	227



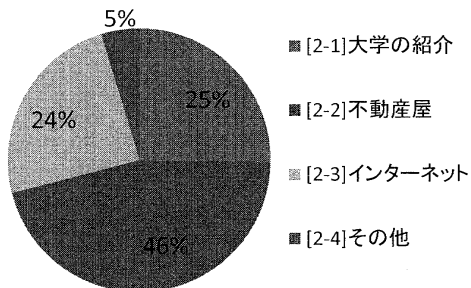
1. 住居

1. 住居	全体
[1-1] 自宅(八王子市内)	4.7%
[1-2] 自宅(八王子市外)	68.6%
[1-3] アパート(八王子市内)	14.8%
[1-4] アパート(八王子市外)	3.6%
[1-5] 親類宅(八王子市内)	0.1%
[1-6] 親類宅(八王子市外)	5.1%
[1-7] その他	3.2%



2. アパート選び

2. アパート選び	全体
[2-1] 大学の紹介	25.3%
[2-2] 不動産屋	45.7%
[2-3] インターネット	24.3%
[2-4] その他	4.7%

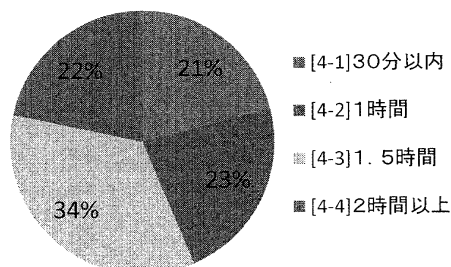


3. アパートを決めた理由

自由記述のため非公開

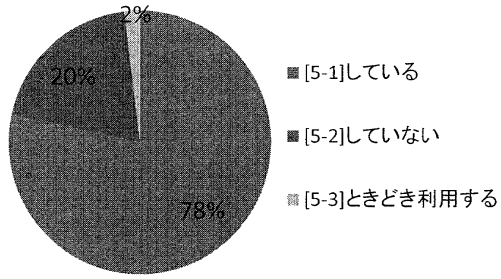
4. 通学時間

4. 通学時間	全体
[4-1] 30分以内	20.9%
[4-2] 1時間	22.5%
[4-3] 1.5時間	34.5%
[4-4] 2時間以上	21.5%



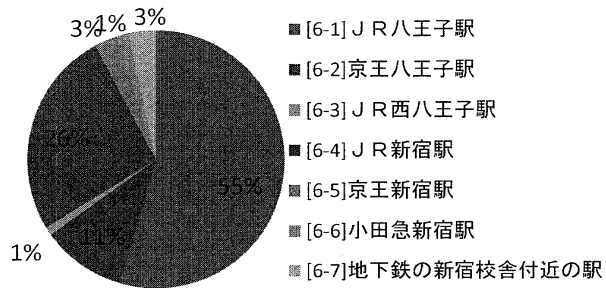
5. 電車の利用

5. 電車の利用	全体
[5-1]している	78.3%
[5-2]していない	19.7%
[5-3]ときどき利用する	1.9%



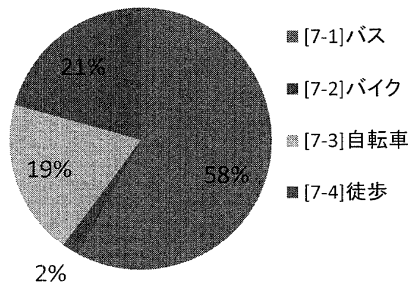
6. 利用する駅

6. 利用する駅	全体
[6-1]JR八王子駅	54.5%
[6-2]京王八王子駅	10.7%
[6-3]JR西八王子駅	1.0%
[6-4]JR新宿駅	25.9%
[6-5]京王新宿駅	2.9%
[6-6]小田急新宿駅	1.5%
[6-7]地下鉄の新宿校舎付近の駅	3.5%



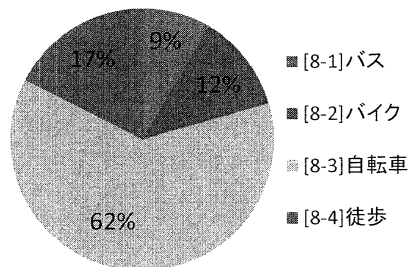
7. 駅からの交通手段

7. 駅からの交通手段	全体
[7-1]バス	58.0%
[7-2]バイク	2.1%
[7-3]自転車	19.3%
[7-4]徒歩	20.6%



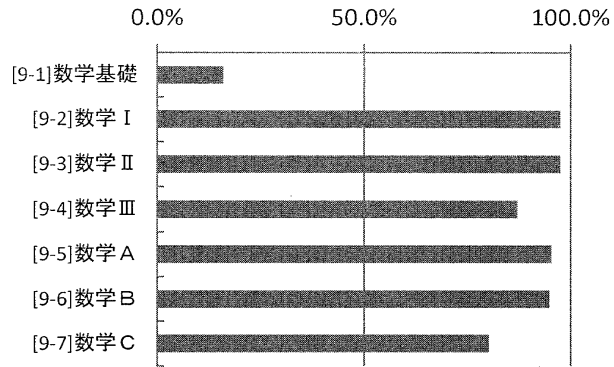
8. 自宅・アパートからの交通手段

8. 自宅・アパートからの交通手段	全体
[8-1]バス	8.4%
[8-2]バイク	12.1%
[8-3]自転車	62.1%
[8-4]徒歩	17.4%



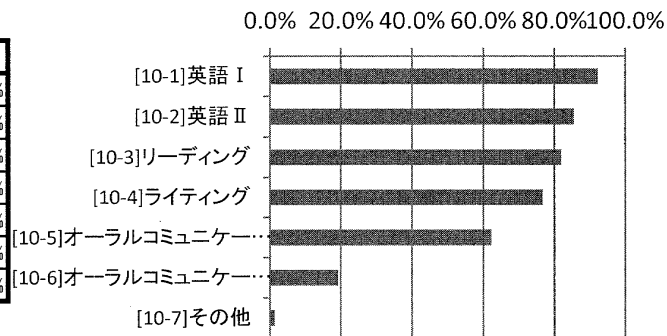
9. 履修した数学

9. 履修した数学	全体
[9-1]数学基礎	16.0%
[9-2]数学Ⅰ	97.6%
[9-3]数学Ⅱ	97.6%
[9-4]数学Ⅲ	87.1%
[9-5]数学A	95.4%
[9-6]数学B	94.9%
[9-7]数学C	80.2%



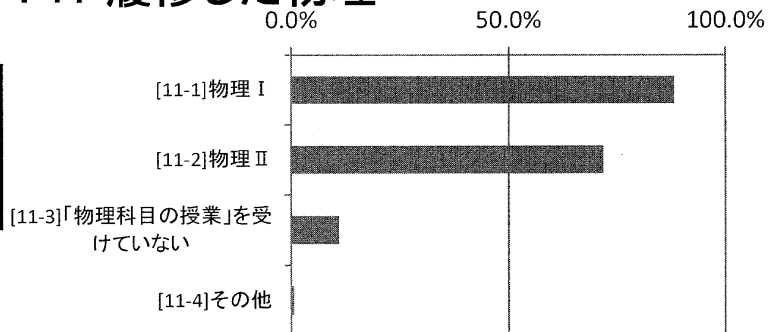
10. 履修した英語

10. 履修した英語	全体
[10-1]英語Ⅰ	92.4%
[10-2]英語Ⅱ	85.5%
[10-3]リーディング	82.0%
[10-4]ライティング	76.7%
[10-5]オーラルコミュニケーションⅠ	62.3%
[10-6]オーラルコミュニケーションⅡ	19.3%
[10-7]その他	1.3%



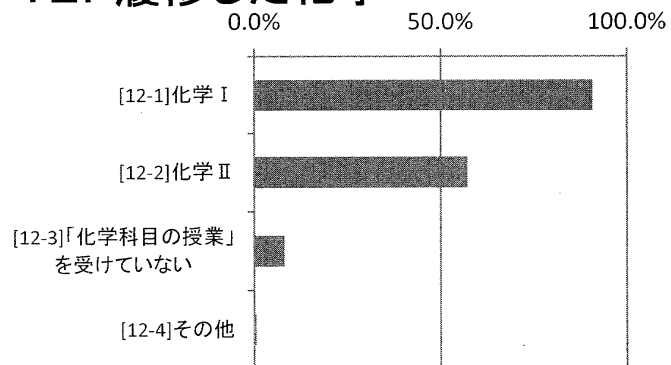
11. 履修した物理

11. 履修した物理	全体
[11-1]物理Ⅰ	88.2%
[11-2]物理Ⅱ	71.9%
[11-3]「物理科目の授業」を受けていない	11.1%
[11-4]その他	0.6%



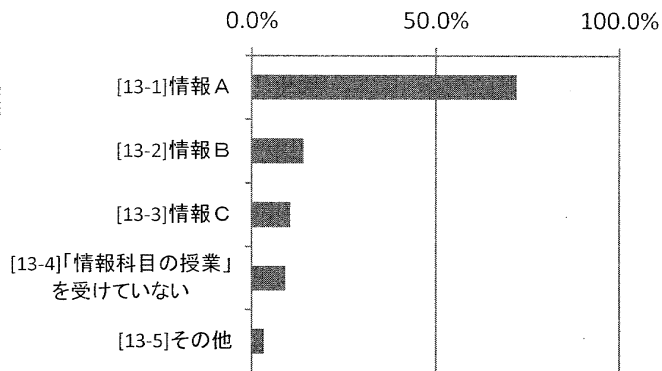
12. 履修した化学

12. 履修した化学	全体
[12-1]化学Ⅰ	90.8%
[12-2]化学Ⅱ	57.2%
[12-3]「化学科目の授業」を受けていない	8.2%
[12-4]その他	0.5%



13: 履修した情報

13: 履修した情報	全体
[13-1]情報A	72.0%
[13-2]情報B	14.1%
[13-3]情報C	10.6%
[13-4]「情報科目の授業」を受けていない	9.2%
[13-5]その他	3.3%

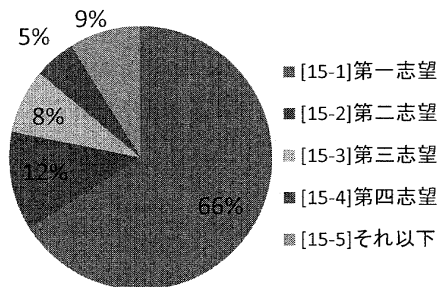


14. 入学を決めた理由

自由記述のため非公開

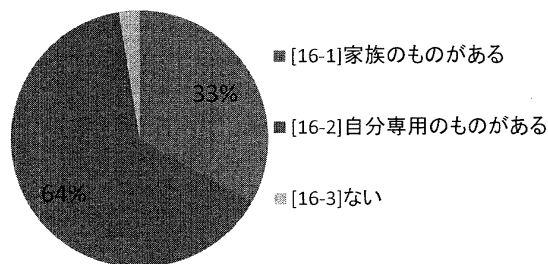
15. 本学の志望順位

15. 本学の志望順位	全体
[15-1]第一志望	66.0%
[15-2]第二志望	12.2%
[15-3]第三志望	7.9%
[15-4]第四志望	5.1%
[15-5]それ以下	8.8%



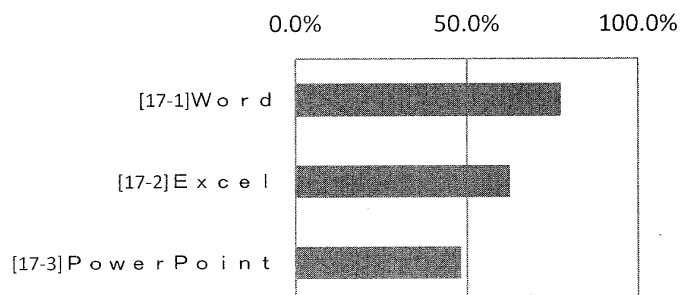
16. パソコン

16. パソコン	全体
[16-1]家族のものがある	33.2%
[16-2]自分専用のもがある	64.3%
[16-3]ない	2.5%



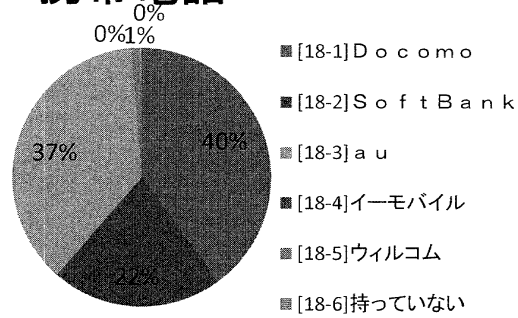
17. 使えるソフト

17. 使えるソフト	全体
[17-1]Word	77.4%
[17-2]Excel	62.5%
[17-3]PowerPoint	48.2%



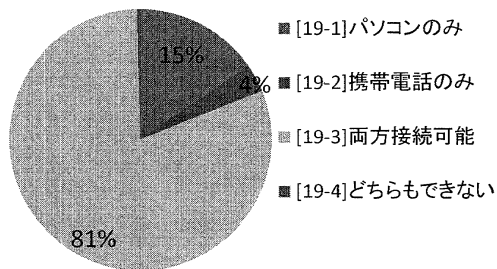
18. 携帯電話

18. 携帯電話	全体
[18-1]Docomo	39.9%
[18-2]SoftBank	21.4%
[18-3]au	37.3%
[18-4]イーモバイル	0.0%
[18-5]ウィルコム	1.1%
[18-6]持っていない	0.3%



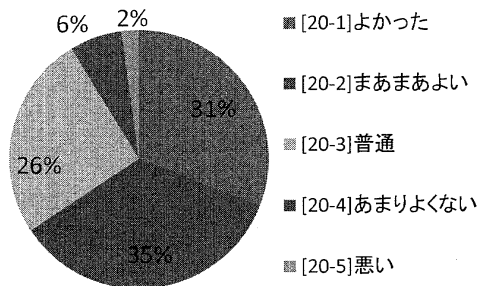
19. インターネット接続

19. インターネット接続	全体
[19-1]パソコンのみ	15.5%
[19-2]携帯電話のみ	3.5%
[19-3]両方接続可能	80.7%
[19-4]どちらもできない	0.4%



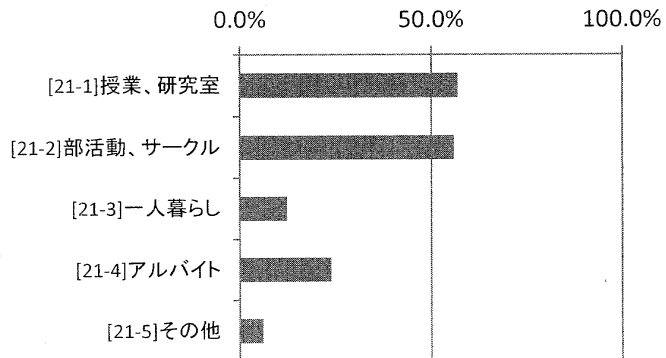
20. 入学して良かったか

20. 入学して良かったか	全体
[20-1]よかった	31.0%
[20-2]まあまあよい	34.8%
[20-3]普通	25.5%
[20-4]あまりよくない	6.5%
[20-5]悪い	2.2%



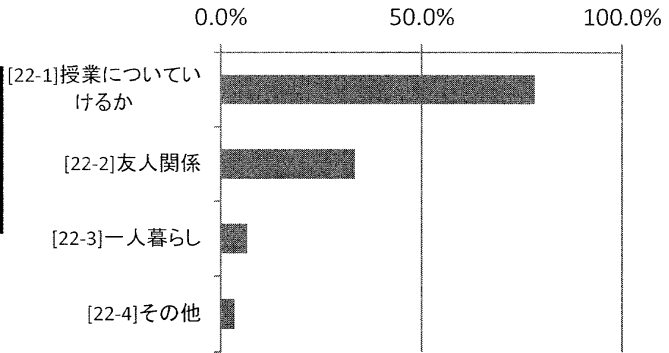
21. 何を楽しみにしているか

21. 何を楽しみにしているか	全体
[21-1]授業、研究室	57.0%
[21-2]部活動、サークル	56.0%
[21-3]一人暮らし	12.4%
[21-4]アルバイト	23.8%
[21-5]その他	6.1%



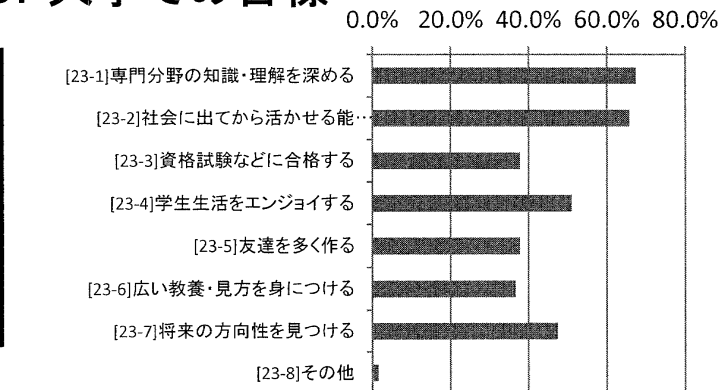
22. 不安なこと

不安なこと	全体
[22-1]授業についていけるか	78.4%
[22-2]友人関係	33.4%
[22-3]一人暮らし	6.6%
[22-4]その他	3.4%



23. 大学での目標

大学での目標	全体
[23-1]専門分野の知識・理解を深める	67.4%
[23-2]社会に出てから活かせる能力を身につける	65.7%
[23-3]資格試験などに合格する	37.8%
[23-4]学生生活をエンジョイする	51.1%
[23-5]友達を多く作る	37.8%
[23-6]広い教養・見方を身につける	36.7%
[23-7]将来の方向性を見つける	47.5%
[23-8]その他	1.5%



24. 現在の夢や抱負

自由記述のため非公開

2011年度 前期アンケート（2年生・3年生対象）

2年生・3年生の皆様へ

工学院大学では、学生の皆さんにきめ細かくサービスを提供するために、さまざまなサポート活動を行っています。このアンケート調査は、そのための基本になるものです。さほど時間はかかりませんので、ぜひ回答してください。

◆回答方法

この調査画面は、キューポートを最初に使う時に自動的に表示されます。回答終了後、[登録]ボタンを押してキューポートを一度ログアウトしてください。再びログインすれば、通常のキューポート画面が表示されます。

もし回答が途中で、「キューポート」の「アンケート・調査」メニューを選択すると下記の入力期間内であれば何度でも追加や修正ができます。入力期間終了後の入力や変更には、特別な手続きが必要です。

◆調査入力期間：2011年6月2日（木）～6月17日（金）

◆集計結果

アンケートを個人が特定できる状態で公表することはありませんが、集計結果については可能な範囲で閲覧できるようにする予定です。

工学院大学 学生生活委員会

1. ◎Q1～Q6は2年生のみお答えください

■アルバイト・経済的なことに関して

Q1. アルバイトをしていますか？（1つだけ選択）

(1) 定期的に行っている (2) 不定期に行っている (3) していない

2. Q2. Q1で「1. 定期的に行っている」と回答した方へ

アルバイトは週に何日していますか？（1つだけ選択）

(1) 1日 (2) 2日 (3) 3日 (4) 4日以上

3. Q3. Q1で「1. 定期的に行っている」及び「2. 不定期に行っている」と回答した方へ
アルバイトの1週間の就労時間はどのくらいですか？（1つだけ選択）

(1) 4時間未満 (2) 4～8時間未満 (3) 8～12時間未満 (4) 12～16時間未満
(5) 16～20時間未満 (6) 20時間以上

4. Q4. Q1で「1. 定期的に行っている」及び「2. 不定期に行っている」と回答した方

へ アルバイト収入の主な使途はなんですか？（複数選択）

- (1) 授業料などの学費 (2) 課外活動費 (3) 生活費 (4) 趣味・交際費 (5) 借金返済
(6) 車・バイク・パソコンなど (7) 携帯電話料金 (8) 貯金 (9) その他

5. Q5. Q1で「1. 定期的に行っている」及び「2. 不定期に行っている」と回答した方へ アルバイトをすることで授業に支障はないですか？（1つだけ選択）

- (1) まったくない (2) 多少支障がある (3) かなり支障がある (4) どちらともいえない

6. Q6. 奨学金を受けていますか？（1つだけ選択）

- (1) 一つ受けている (2) 二つ以上受けている (3) 受けていない
(4) 受けたいが条件等により受けられない

7. ◎Q7～最後まで、3年生のみお答えください

■住居・通学・生活に関して

Q7. あなたの住まいは？（1つだけ選択）

- (1) 自宅（八王子市内） (2) 自宅（八王子市外） (3) アパート（八王子市内）
(4) アパート（八王子市外） (5) 親類宅（八王子市内） (6) 親類宅（八王子市外）
(7) その他

8. Q8. 通学時間はどのくらいですか？（1つだけ）

- (1) 30分以内 (2) 1時間 (3) 1.5時間 (4) 2時間以上

9. Q9. 自分のパソコンはありますか？（1つだけ選択）

- (1) 家族のものがある (2) 自分専用のものがある (3) ない

10. Q10. パソコンで使えるソフトには？（複数選択）

- (1) Word (2) Excel (3) PowerPoint

11. Q11. 携帯電話を持っていますか？（また、どこのキャリアですか？）（主に使用する携帯電話を1つだけ選択）

- (1) Docomo (2) Softbank (3) au (4) イーモバイル
(5) ウィルコム (6) 持っていない

12. Q12. インターネットに接続できますか？

- (1) パソコンのみ (2) 携帯電話のみ (3) 両方接続可能 (4) どちらもできない

13. ■大学生活について

Q 1 3. 本学に入学して良かったですか？（1つだけ選択）

- (1) 良かった (2) まあまあ良い (3) 普通 (4) あまり良くない (5) 悪い

14. Q 1 4. 大学生活は充実していますか？（1つだけ選択）

- (1) 非常に充実している (2) まあまあ充実している (3) 普通
(4) あまり充実していない (5) まったく充実していない

15. Q 1 5. 大学生活で何を楽しみにしていますか？（複数選択）

- (1) 授業、研究室 (2) 部活動、サークル (3) 一人暮らし (4) アルバイト (5) その他

16. Q 1 6. 大学生活で不安なことは何ですか？（複数選択）

- (1) 授業についていけるか (2) 友人関係 (3) 一人暮らし (4) その他

17. Q 1 7. 大学での目標は何ですか？（複数選択）

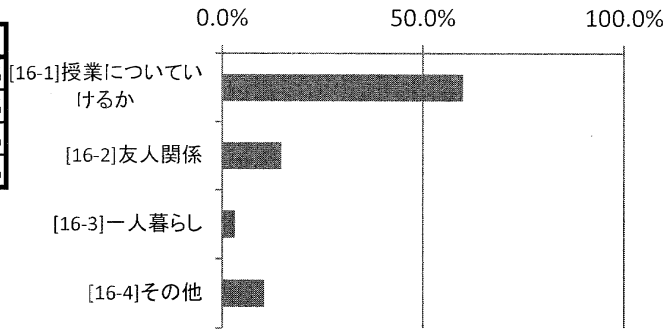
- (1) 専門分野の知識・理解を深める (2) 社会に出てから活かせる能力を身につける
(3) 資格試験などに合格する (4) 学生生活をエンジョイする
(5) 友達を多く作る (6) 広い教養・見方を身につける
(7) 将来の方向性を見つける (8) その他

以上

16. 不安なこと

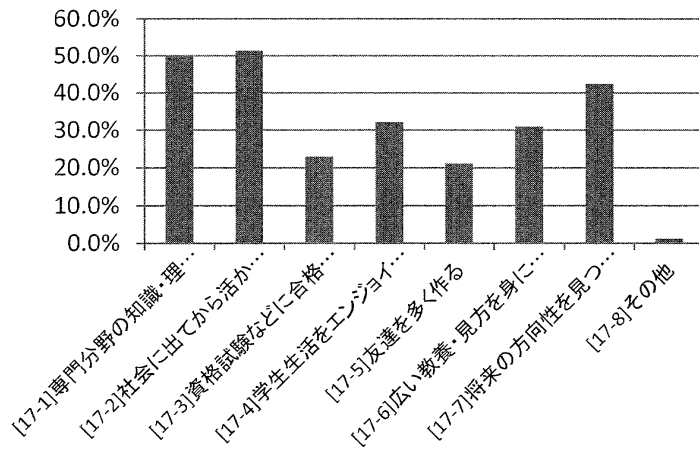
16. 不安なこと	
[16-1]授業についていけるか	60.1%
[16-2]友人関係	14.8%
[16-3]一人暮らし	3.3%
[16-4]その他	10.5%

0.9



17. 大学での目標

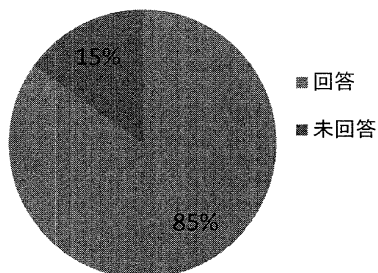
17. 大学での目標	
[17-1]専門分野の知識・理解を深める	49.8%
[17-2]社会に出てから活かせる能力を身につける	51.5%
[17-3]資格試験などに合格する	23.0%
[17-4]学生生活をエンジョイする	32.2%
[17-5]友達を多く作る	21.2%
[17-6]広い教養・見方を身につける	31.0%
[17-7]将来の方向性を見つける	42.5%
[17-8]その他	1.2%



2011年度 2年生・3年生前期アンケート集計結果

回答者数

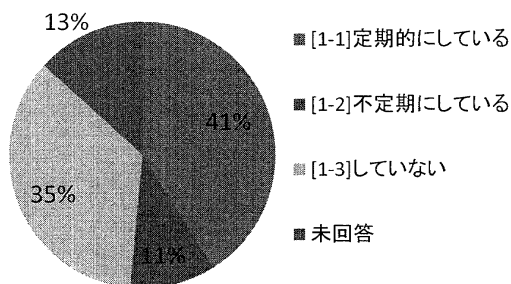
回答者数	全体
回答	2342
未回答	415



1. アルバイト

1. アルバイト	
[1-1]定期的に行っている	41.1%
[1-2]不定期的に行っている	10.4%
[1-3]していない	35.3%
未回答	13.2%

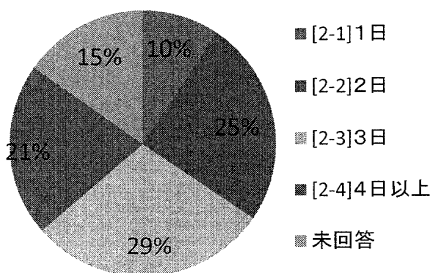
1.0



2. アルバイト日数

2. アルバイト日数	
[2-1]1日	9.4%
[2-2]2日	25.1%
[2-3]3日	29.3%
[2-4]4日以上	21.0%
未回答	15.2%

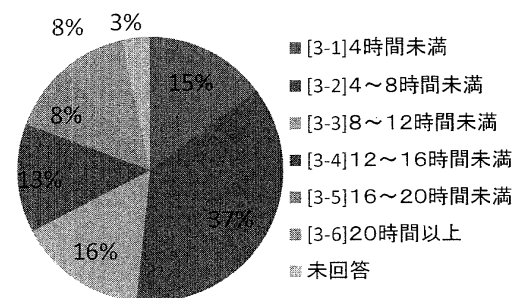
1.0



3. アルバイトの就労時間

3. アルバイトの就労時間	
[3-1]4時間未満	14.9%
[3-2]4～8時間未満	37.4%
[3-3]8～12時間未満	15.9%
[3-4]12～16時間未満	13.5%
[3-5]16～20時間未満	8.3%
[3-6]20時間以上	7.8%
未回答	3.4%

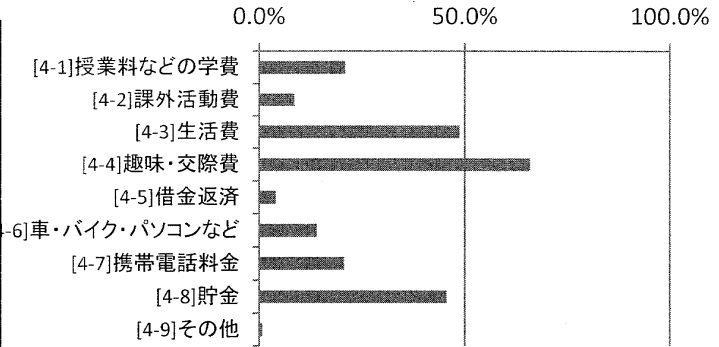
1.0



4. アルバイト収入の主な用途

4. アルバイト収入の主な用途	
[4-1]授業料などの学費	20.9%
[4-2]課外活動費	8.6%
[4-3]生活費	48.7%
[4-4]趣味・交際費	66.0%
[4-5]借金返済	4.1%
[4-6]車・バイク・パソコンなど	14.0%
[4-7]携帯電話料金	20.7%
[4-8]貯金	45.6%
[4-9]その他	0.8%

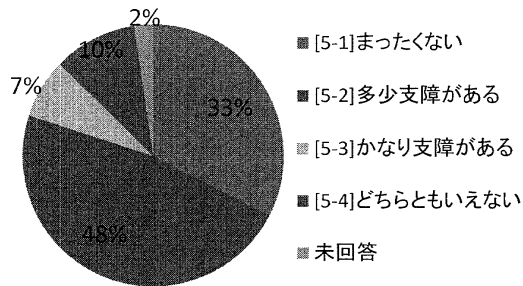
2.3



5. アルバイトで授業に支障は？

5. アルバイトで授業に支障は？	
[5-1]まったくない	33.1%
[5-2]多少支障がある	48.3%
[5-3]かなり支障がある	7.4%
[5-4]どちらともいえない	10.5%
未回答	2.4%

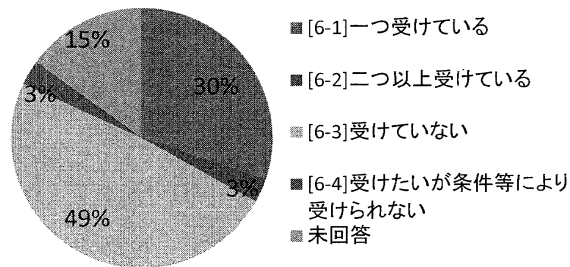
1.0



6. 奨学金

6. 奨学金	
[6-1]一つ受けている	30.8%
[6-2]二つ以上受けている	3.0%
[6-3]受けていない	49.6%
[6-4]受けたいが条件等により受けられない	3.2%
未回答	15.3%

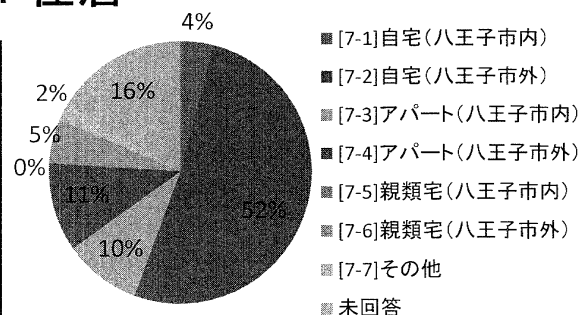
1.0



7. 住居

7. 住居	
[7-1]自宅(八王子市内)	4.1%
[7-2]自宅(八王子市外)	51.6%
[7-3]アパート(八王子市内)	9.5%
[7-4]アパート(八王子市外)	10.9%
[7-5]親類宅(八王子市内)	0.1%
[7-6]親類宅(八王子市外)	5.4%
[7-7]その他	2.0%
未回答	16.5%

1.0

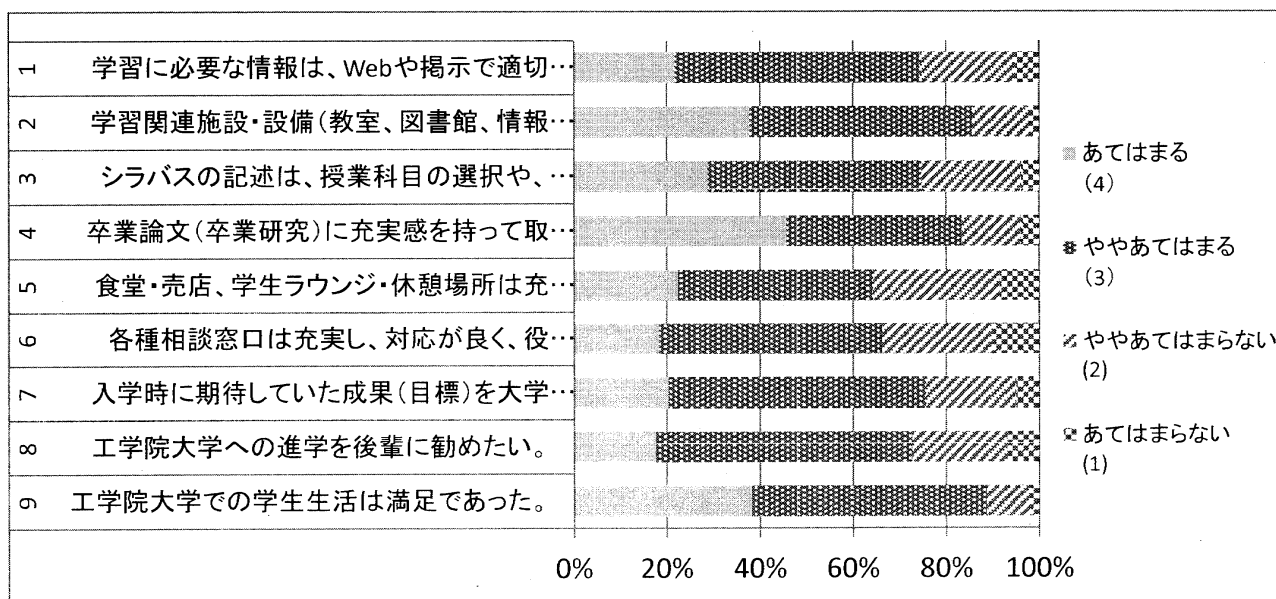


工学院大学 卒業時満足度調査【結果】

回答者数 1,092名

2013/3/19実施
学長企画室

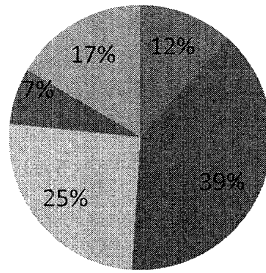
設問	あてはまる (4)	ややあてはまる (3)	ややあてはまらない (2)	あてはまらない (1)	平均値
1 学習に必要な情報は、Webや掲示で適切に伝わり、不自由しなかった。	21.7%	52.7%	20.4%	5.2%	2.91
2 学習関連施設・設備(教室、図書館、情報科学センター、学習支援センター、実験室等の設備)は充実し、学習に役立った。	37.8%	47.8%	12.1%	2.3%	3.21
3 シラバスの記述は、授業科目の選択や、学習を進めるうえで役立った。	28.8%	46.0%	21.5%	3.8%	3.00
4 卒業論文(卒業研究)に充実感を持って取り組むことができた。	45.7%	37.7%	12.7%	4.0%	3.25
5 食堂・売店、学生ラウンジ・休憩場所は充実し、快適であった。	22.4%	41.9%	27.2%	8.4%	2.78
6 各種相談窓口は充実し、対応が良く、役立った。	18.3%	48.0%	23.6%	10.1%	2.74
7 入学時に期待していた成果(目標)を大学生活によって得られたと感じる。	20.4%	55.4%	19.4%	4.9%	2.91
8 工学院大学への進学を後輩に勧めたい。	17.7%	55.0%	20.4%	6.9%	2.84
9 工学院大学での学生生活は満足であった。	38.3%	50.5%	9.3%	1.9%	3.25
10 大学生生活で印象に残ったこと(授業科目、サークル活動、その他)があれば、なるべく具体的に記入してください。 また、その他のご意見等も、この欄に記入してください。	別紙				



8. 通学時間

8. 通学時間	
[8-1]30分以内	11.7%
[8-2]1時間	39.4%
[8-3]1.5時間	25.5%
[8-4]2時間以上	6.9%
未回答	16.5%

1.0

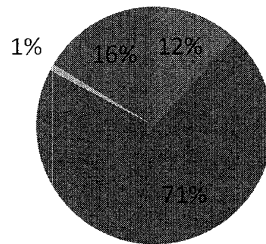


- [8-1]30分以内
- [8-2]1時間
- [8-3]1.5時間
- [8-4]2時間以上
- 未回答

9. パソコン

9. パソコン	
[9-1]家族のものがある	11.8%
[9-2]自分専用のもがある	71.1%
[9-3]ない	0.9%
未回答	16.3%

1.0

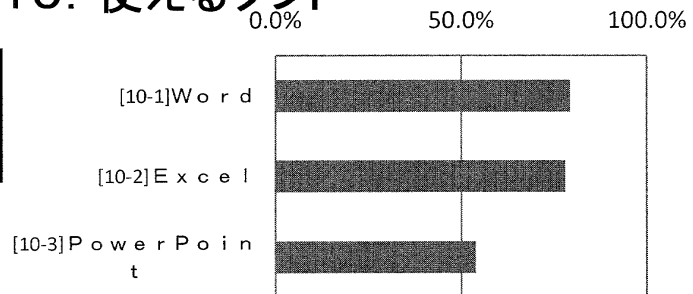


- [9-1]家族のものがある
- [9-2]自分専用のもがある
- [9-3]ない
- 未回答

10. 使えるソフト

10. 使えるソフト	
[10-1]Word	79.3%
[10-2]Excel	78.0%
[10-3]PowerPoint	53.9%

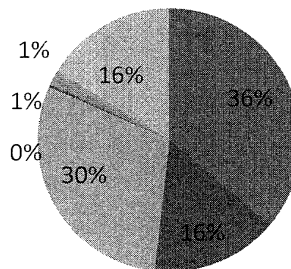
2.1



11. 携帯電話

11. 携帯電話	
[11-1]Docomo	36.2%
[11-2]Softbank	15.6%
[11-3]au	29.8%
[11-4]イーモバイル	0.3%
[11-5]ウィルコム	0.9%
[11-6]持っていない	0.9%
未回答	16.2%

1.0

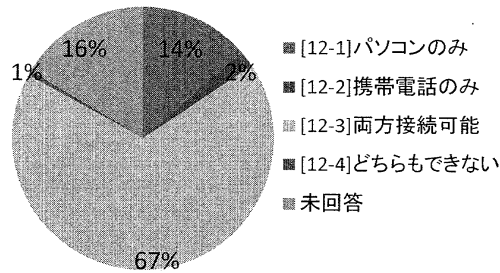


- [11-1]Docomo
- [11-2]Softbank
- [11-3]au
- [11-4]イーモバイル
- [11-5]ウィルコム
- [11-6]持っていない
- 未回答

12. インターネット接続

12. インターネット接続	
[12-1]パソコンのみ	13.6%
[12-2]携帯電話のみ	1.9%
[12-3]両方接続可能	67.4%
[12-4]どちらもできない	0.5%
未回答	16.4%

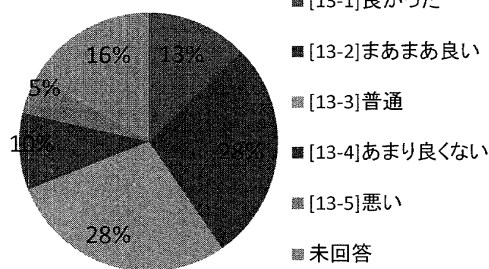
1.0



13. 入学して良かったか

13. 入学して良かったか	
[13-1]良かった	12.7%
[13-2]まあまあ良い	27.7%
[13-3]普通	28.6%
[13-4]あまり良くない	9.6%
[13-5]悪い	4.9%
未回答	16.5%

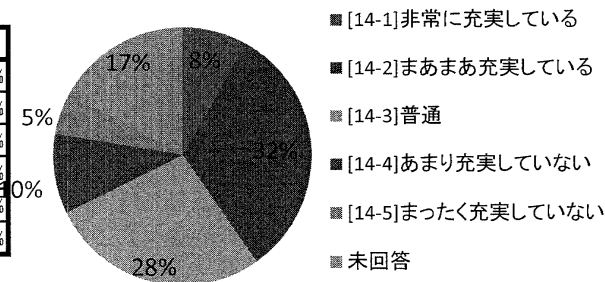
1.0



14. 充実しているか

14. 充実しているか	
[14-1]非常に充実している	8.2%
[14-2]まあまあ充実している	32.1%
[14-3]普通	27.4%
[14-4]あまり充実していない	10.0%
[14-5]まったく充実していない	5.3%
未回答	17.0%

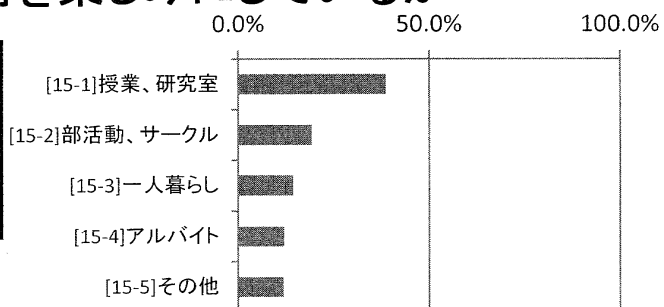
1.0



15. 何を楽しみにしているか

15. 何を楽しみにしているか	
[15-1]授業、研究室	38.7%
[15-2]部活動、サークル	19.3%
[15-3]一人暮らし	14.4%
[15-4]アルバイト	12.1%
[15-5]その他	11.9%

1.0



工学院大学 卒業時満足度調査【結果】

2013/3/19実施
学長企画室

回答者数 1,092名

設 問			あてはまる (4)	ややあてはまる (3)	ややあてはまら ない(2)	あてはまらない (1)
1	学習に必要な情報は、Webや掲示で適切に伝わり、不自由しなかった。	2012年度卒業生	21.7%	52.7%	20.4%	5.2%
		2011年度卒業生	21.5%	51.2%	23.2%	4.2%
		比較	0.3%	1.5%	-2.8%	1.1%
2	学習関連施設・設備(教室、図書館、情報科学センター、学習支援センター、実験室等の設備)は充実し、学習に役立った。	2012年度卒業生	37.8%	47.8%	12.1%	2.3%
		2011年度卒業生	38.4%	48.4%	11.0%	2.2%
		比較	-0.6%	-0.6%	1.1%	0.1%
3	シラバスの記述は、授業科目の選択や、学習を進めるうえで役立った。	2012年度卒業生	28.8%	46.0%	21.5%	3.8%
		2011年度卒業生	23.1%	49.6%	21.9%	5.3%
		比較	5.8%	-3.7%	-0.4%	-1.6%
4	卒業論文(卒業研究)に充実感を持って取り組むことができた。	2012年度卒業生	45.7%	37.7%	12.7%	4.0%
		2011年度卒業生	46.6%	38.5%	9.9%	5.0%
		比較	-0.9%	-0.8%	2.8%	-1.0%
5	食堂・売店、学生ラウンジ・休憩場所は充実し、快適であった。	2012年度卒業生	22.4%	41.9%	27.2%	8.4%
		2011年度卒業生	24.4%	39.4%	27.6%	8.7%
		比較	-2.0%	2.5%	-0.3%	-0.2%
6	各種相談窓口は充実し、対応が良く、役立った。	2012年度卒業生	18.3%	48.0%	23.6%	10.1%
		2011年度卒業生	18.4%	45.5%	27.0%	9.1%
		比較	-0.1%	2.5%	-3.4%	1.0%
7	入学時に期待していた成果(目標)を大学生活によって得られたと感じる。	2012年度卒業生	20.4%	55.4%	19.4%	4.9%
		2011年度卒業生	19.9%	56.4%	18.9%	4.9%
		比較	0.5%	-1.0%	0.5%	0.0%
8	工学院大学への進学を後輩に勧めたい。	2012年度卒業生	17.7%	55.0%	20.4%	6.9%
		2011年度卒業生	17.3%	51.8%	22.3%	8.6%
		比較	0.5%	3.2%	-1.9%	-1.7%
9	工学院大学での学生生活は満足であった。	2012年度卒業生	38.3%	50.5%	9.3%	1.9%
		2011年度卒業生	36.8%	51.6%	9.3%	2.3%
		比較	1.5%	-1.2%	0.1%	-0.4%

2012年2月22日

第47回学生生活実態調査 概要報告(抄)

～全国総合データ概要と工学院の傾向～

全国大学生生活協同組合連合会

広報調査部 堀内 久美

<第47回学調調査概要>

- 1) 調査実施時期 2011年10～11月
- 2) 対象 全国の国公立および私立大学の学部学生
- 3) 参加生協および回収数
 - ①全体 72生協 16,885 (回収率 31.2%)
 - ②全国総合 28生協 8,498 (回収率 28.6%)
 - ③東京(1都3県) 23生協 4,761 (回収率 26.8%)
 - ④工学院 249 (回収率 30.7%)

<本日の報告>

I. 全国総合の概要 (略)

1. 学生の経済状況
2. 東日本大震災以降の意識と行動の変化
3. 就職について・就職活動の変化

II. 工学院のデータ概要

1. 経済生活
 - (1) 1ヶ月の生活費
 - (2) 暮らし向きについて
2. 日常生活
 - (1) 日常生活で気にかかっていること・悩んでいること
 - (2) 相談相手
 - (3) 東日本大震災以降の意識と行動の変化
3. 大学生活
 - (1) 大学生活の重点
 - (2) 大学について
 - (3) 就職について

II.工学院のデータ概要

<サンプル特性>

- ① 理系が 100% (全国 40.6%・東京 50.9%)
- ② 男子が 8 割 (全国の理系 73.1%・東京の理系 69.7%)
- ③ 自宅生が 75.9% (全国の理系 43.3%・東京の理系 64.7%)

学部別

学部	全国	1都3県	11実数	11構成比	11新卒 構成比	11八王子 構成比	10構成比
文科系	46.8	38.0					
理科系	40.6	50.9	249	100.0	100.0	100.0	100.0
医歯薬系	12.6	11.0					
総計	100.0	100.0	249	100.0	100.0	100.0	100.0

学年別

学年	全国	1都3県	11実数	11構成比	11新卒 構成比	11八王子 構成比	10構成比
1年	31.7	30.6	69	27.7	8.8	50.9	27.1
2年	24.6	25.5	66	26.5	8.8	48.2	29.3
3年	21.6	22.6	62	24.9	44.5	0.9	22.7
4年	22.1	21.4	52	20.9	38.0		21.0
総計	100.0	100.0	249	100.0	100.0	100.0	100.0

性別

性別	全国	1都3県	11実数	11構成比	11新卒 構成比	11八王子 構成比	10構成比
男子	56.1	55.3	197	79.1	80.3	77.7	85.6
女子	43.9	44.7	52	20.9	19.7	22.3	14.4
総計	100.0	100.0	249	100.0	100.0	100.0	100.0

入試形態

入試形態	全国	1都3県	11実数	11構成比	11新卒 構成比	11八王子 構成比	10構成比
一般	73.0	69.7	122	49.0	51.8	45.5	53.7
推薦計	25.2	28.2	125	50.2	47.4	53.6	45.4
一般公募推薦	8.2	6.6	26	10.4	9.5	11.6	6.1
指定校推薦	7.3	12.5	74	29.7	27.7	32.1	26.6
付属から進学	4.0	4.3	17	6.8	6.6	7.1	9.2
自己推薦	1.0	1.2					
A0	3.6	2.5	8	3.2	3.6	2.7	2.2
特別枠	1.0	1.1					1.3
帰国子女	0.2	0.4					
社会人入試	0.2	0.2					
編入・学士入学	1.0	1.0	1	0.4	0.7		0.4
その他	0.0	0.1					
無回答	0.3	0.3	1	0.4		0.9	0.4
総計	100.0	100.0	249	100.0	100.0	100.0	100.0

(実数：人、構成比：%)

住居形態

住居形態	全国	1都3県	11実数	11構成比	11新卒 構成比	11八王子 構成比	10構成比
自宅	45.2	64.5	189	75.9	79.6	71.4	73.4
自宅外計	54.8	35.5	60	24.1	20.5	28.6	26.6
寮	2.8	4.1	4	1.6		3.6	1.3
アパートなど	50.8	30.5	54	21.7	19.0	25.0	24.5
下宿(Kなし)	0.2	0.1					0.4
下宿(Kつき)	10.2	3.1	5	2.0	2.9	0.9	1.7
アパート	23.6	17.6	33	13.3	12.4	14.3	12.7
マンション	14.8	7.7	12	4.8	2.2	8.0	7.4
学生会館	0.7	1.1	1	0.4	0.7		
親保有	0.3	0.4	1	0.4		0.9	2.2
不明	0.8	0.5	2	0.8	0.7	0.9	
食事付下宿	1.2	0.9	2	0.8	1.5		0.9
総計	100.0	100.0	249	100.0		100.0	100.0

1.経済生活

(1) 1ヶ月の生活費

通学時間の長さがアルバイト就労や交通費に影響。

サークル加入は低く、食費や教養娯楽費が少ない。

自宅生の36%が奨学金を受給し、奨学金の使途の7割は大学納付金に。

1) 自宅生

1ヶ月の生活費（自宅生）

(円)

	全国	東京	10年	11年	新宿	八王子
小遣い	15,070	15,660	13,290	13,780	9,930	19,160
奨学金	12,390	11,270	20,310	14,840	13,150	17,210
アルバイト	29,500	28,480	28,500	24,240	29,090	17,450
定職	270	210				
その他	1,590	1,760	1,630	1,790	1,300	2,470
収入合計	58,830	57,390	63,730	54,650	53,470	56,290
食費	10,920	11,140	9,900	8,650	8,730	8,540
住居費	210	190		410	140	820
交通費	9,460	9,200	10,360	10,590	8,950	13,010
教養娯楽費	6,840	7,110	5,410	5,430	5,360	5,520
書籍費	1,850	1,890	3,080	1,730	1,880	1,520
勉学費	1,180	1,160	1,380	1,150	960	1,440
日常費	5,330	5,060	3,670	3,320	3,890	2,480
電話代	3,300	3,080	3,700	4,490	4,660	4,240
その他	1,680	1,820	3,850	2,050	1,960	2,170
貯金・繰越	16,220	15,240	20,550	15,760	15,440	16,220
支出合計	56,990	55,890	61,900	53,580	51,960	55,960

① 収入合計 54,650 円（東京比▲2,740 円・10年比▲9,080 円）

② 「小遣い」13,780 円（東京比▲1,880）、「奨学金」14,840 円（同+3,570 円）、「アルバイト」24,240 円（同▲4,240 円）と「奨学金」が収入全体に占める割合は 27.2%（東京 19.6%）と高い。

➤ 全国的な傾向と同様に男子のアルバイトの就労率や収入金額は女子より低い（男子 44.7%・22,950 円、女子 55.0%・28,580 円）。収入平均も男子が 4,200 円少ないうえに、アルバイトに積極的

な女子の構成比が小さいため東京平均を下回る。特に 1 年生はアルバイト就労率が 29.2%（東京自宅平均 58.8%）と低く、1 ヶ月の収入は 12,330 円で、東京平均（22,450 円）より 10,120 円も少ない。

➤ アルバイトをしない理由としては、「時間がない」63.4%（していない人を 100 として・東京自宅平均 57.8%）や「期間・曜日が合わない」34.3%（同 30.4%）と多くが時間的な制約をあげており、「必要がない」4.3%（同 11.1%）や「したいと思わない・面倒」14.0%（同 14.1%）といったアルバイトに消極的な回答は少ない。

③ 「奨学金」は自宅生の 36.0%が受給（東京 26.7%）し、その平均額は 59,040 円と、東京平均より 1,930 円高い。

④ 支出合計 53,580 円。「食費」8,650 円（男子 9,410 円・女子 6,190 円）（東京全体比▲2,490 円・男子▲2,820 円・女子▲3,770 円）と男女ともに少ない。キャンパスでの差は新宿 8,730 円に対し、八王子 8,540 円と小さい。

⑤ 「交通費」10,590 円と「電話代」4,490 円は東京平均と比較しそれぞれ 1,390 円と 1,410 円高い。「交通費」は新宿 8,950 円に対して八王子 13,010 円。

➤ 通学時間は新宿 76.8 分、八王子 97.6 分（東京平均 74.3 分）。また学内の滞校時間は新宿 7.1 時間、八王子 8.3 時間と、八王子の学生は通学や学内で過ごす時間が長い。

⑥ 「貯金・繰越」15,760 円。奨学金の使いみちは受給者の 76.4%が「大学納付金」。

「学生の元気」に関する学内アンケート(学科・部署対象)

本学の「学生の元気」について、現状を把握するため、本学の各学科・部署の代表者を対象に、以下の5つの設問からなるアンケートを行った(回答数23)。

1. 貴部署・機関で、「学生の元気」を高めるといふことではどのようなことに留意されていますか。また、「学生の元気」にあたりと考えられる事例をお書きください。

【回答】

<工学部>

- ・導入教育や実験などの演習科目で、「つまようじブリッジ」や「ペットボトル・ロケット・カー」、「たまご落とし」などの学生の創造力を高め、機械に興味の湧かせる工夫をしている。
- ・低学年から機械実習や機械工学実験と言ったモノから入る教育を実施し、学生プロジェクトへの参加を奨励している。
- ・機械の学生としても専門性を高めるために、本年度から3年生に数回の専門試験を実施している。卒業の研究室配属に考慮することで学習意欲を向上させる取り組みを実施している。
- ・FDシンポジウムとして授業の改善や取り組みの報告を定期的に行い、個々の教員の授業づくりのヒントが得られるような取り組みをしている。(機械工学科)
- 学生プロジェクトを中心とした大学内の活動に積極的に学生が参加するよう支援をおこなっている。夢作り工房での学生の参加者の割合は機械システム工学科が一番多いと思われる。学科の方針として機械を動かすということを広報のキーワードとしており、入学後も教科書の勉強だけでなく、機械を動かしてみたいと考える学生が多く入学してきていることも原因と考えられる。(機械システム工学科)
- 授業(講義、実験、演習)や学生面談などのさまざまな機会に、学生との直接の交流から年度毎の全体の様子を感じ取り、教員間で意見交換し、意見集約を行っている。例えば、実験系科目では、2～4限の長時間に涉って授業であり、学生のおおまかな様子を知るなどしている。オリエンテーションキャンプ、グループ面談は、学生の様子を探る上で重要な行事である。グループ面談では、キャリアデザインノートを使って、各人の様子が記録に残るようにした。4月と9月の2回実施しているが、個人面談に深まりがあるように感じている。今年度は6月に、1、2年生向けに研究室見学を実施し、その直後に教員と懇親の機会を持った。その際のアンケートは、学生のポジティブな意見や感想が多く、この時期に学生に働きかけることが重要との印象を持った。また、前期終了時に、1・2年生の成績優秀者と教員との意見交換会を実施した。その中で、さまざまな問題点の指摘を受けた。学生の動向を把握する上で貴重な機会となった。基本的には学生との交流が、学生の元気を高めることにつながると考えている。また、専門分野への興味を持たせ、それを維持することは学生の学習の動機を維持する上で重要と考える。「学生の元気」は、興味を持ち、学習に積極的に向かう心持ちのことと思う。(応用化学科)
- 「学生の元気」を高める、とは学生のやる気、前向きな気概を引き出す、と理解する。それに対して

2) 下宿生

- ① 収入合計 109,820 円（東京比▲21,710 円・10 年比+2,360 円）。「仕送り」69,490 円（東京比▲10,300 円）、「奨学金」21,810 円（同▲1,760 円）、「アルバイト」17,230 円（同▲8,310 円）といずれも東京平均と比較が少ない。
- ② 支出合計 111,380 円。「食費」21,370 円（東京比▲3,030 円）、「住居費」52,090 円（同▲8,640 円）が低いほか、「教養娯楽費」6,330 円も東京平均より 2,800 円低い。

1ヶ月の生活費（下宿生）

	全国	東京	10年	11年	新宿	八王子
仕送り	69,780	79,790	64,910	69,490	74,340	65,030
奨学金	25,350	23,570	15,570	21,810	19,300	24,120
アルバイト	21,540	25,540	25,840	17,230	21,090	13,680
定職	180	760				
その他	2,040	1,870	1,140	1,290	960	1,600
収入合計	118,900	131,530	107,460	109,820	115,690	104,430
食費	22,590	24,400	21,930	21,370	24,360	18,390
住居費	53,020	60,730	50,210	52,090	51,550	52,630
交通費	3,150	4,700	4,500	4,670	7,040	2,300
教養娯楽費	8,460	9,130	5,600	6,330	5,830	6,830
書籍費	2,070	2,340	2,430	1,790	1,530	2,040
勉学費	1,540	1,570	1,810	1,210	1,350	1,070
日常費	6,610	6,710	5,520	6,170	6,960	5,390
電話代	4,720	5,320	4,380	6,260	6,460	6,050
その他	2,310	2,430	5,440	3,930	5,650	2,220
貯金・繰越	10,290	10,440	8,940	7,550	5,520	9,590
支出合計	114,760	127,770	110,780	111,380	116,240	106,520

- サークルの加入率が 39.4%（東京の理系平均 58.8%）と低い。
 - 80.4%は「外食費を含む食費」を節約したいと考えている（東京平均 73.8%）。
 - 昼食代の平均は 344 円（東京平均 405 円）で男子 353 円に対し女子 270 円。
 - 朝食の摂取率は 55.0%（東京 61.3%）と低く、特に女子は 27.3%（男子 61.2%）と低い。食事代の節約とともに、食事に対する関心の低さが懸念される。
- ③ 「交通費」は八王子 2,300 円に対し新宿 7,040 円と高く、自宅生とは逆の傾向。
- 通学時間は新宿 50.4 分、八王子 27.4 分。新宿の学生は住まいとキャンパスの移動距離が長い（+キャンパス間の移動も？）。

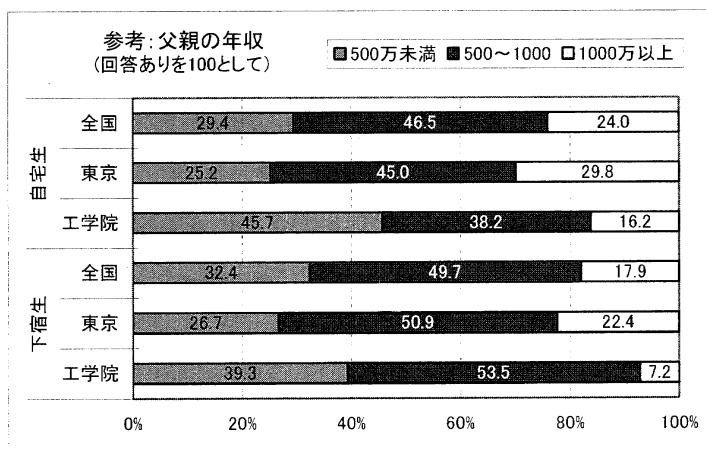
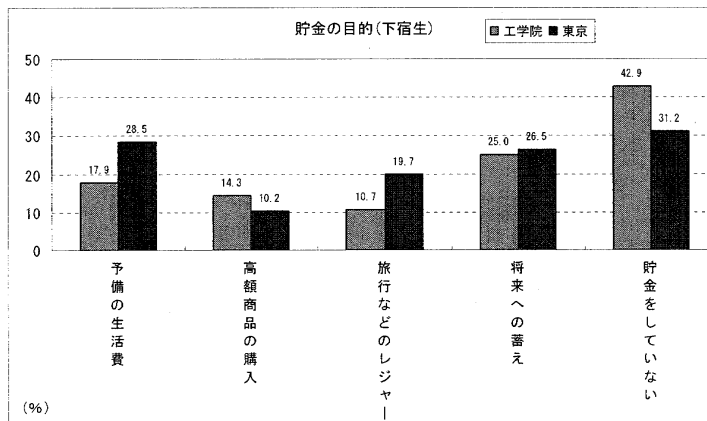
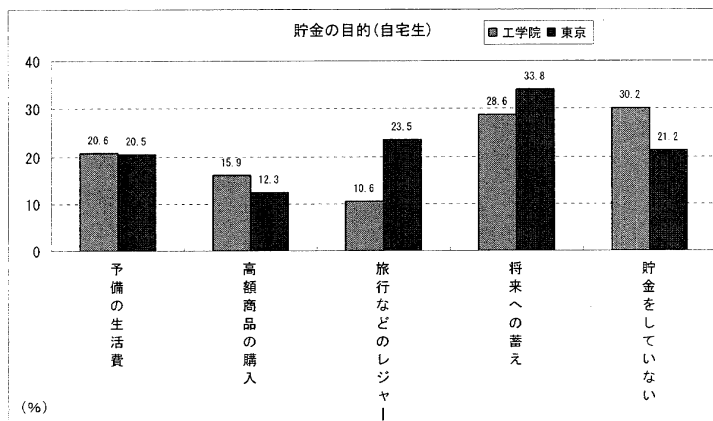
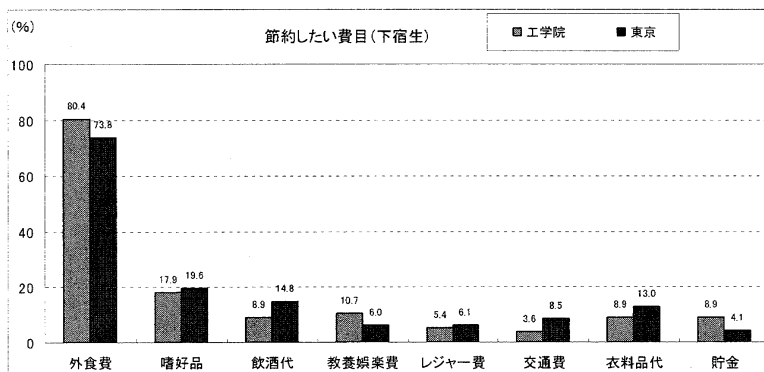
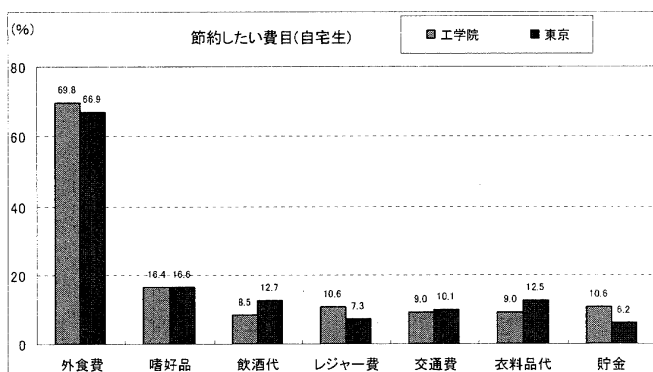
(2) 暮らし向きについて

住まいに関わらず「苦しい方」と多くが感じ、さらに自宅生は今後「苦しくなる」と不安の声が大きい。対策は「バイト」「我慢」「特にない」

- ① 暮らし向きが「楽な方」29.3%（自宅生 29.1%・下宿生 28.6%）、「ふつう」51.0%（自宅生 50.8%・下宿生 53.6%）、「苦しい方」19.3%（自宅生 19.6%・下宿生 17.9%）。自宅生、下宿生ともに「楽な方」は東京平均より 14 ポイント程度低く、「苦しい方」がそれぞれ 6.0 ポイントと 4.9 ポイント高い。
- ② 今後の見通しについて「よくなる」12.4%（自宅生 11.6%・下宿生 14.3%）に対して「苦しくなる」42.1%（自宅生 44.9%・下宿生 32.1%）と高く、「苦しくなる」と答えた自宅生は東京平均と比較し 10.6 ポイントも多い。
- ③ 特に現在の生活が「苦しい」と答えた自宅生は、今後も「苦しくなる」と考える学生が 7 割以上を占める。
- ④ 収入面の対策については「バイトの増加」35.3%が最も多いが、「我慢する」や「特にない」もそ

れぞれ 25.7%と 30.9%と高い。

- ⑤ 大学納付金の支払いについては「親」85.9%、「貸与奨学金」10.8%、「自分自身」5.2%、「給付奨学金」3.6%、「知らない・わからない」5.2%など。「自分自身」の自宅生が6.3%と全国(4.2%)や東京(4.5%)よりやや多く、大学納付金に占める自己負担額の平均も62.5%(全国58.5%・東京54.3%)と高めであった。
- ⑥ 貯金の目的についても「将来への蓄え」27.7%(自宅生28.6%・下宿生25.0%)や「予備の生活費」20.5%(自宅生20.6%・下宿生17.9%)が多く、不安を裏付けている。「貯金をしていない」は自宅生30.2%(東京21.2%)、下宿生42.9%(同31.2%)であった。



下記を実施している。

1) 我々教員側の学生に対する思いを講義の中で伝える。つまり世の中から期待されていること、教員は学生の味方であること、サポートすることを常に考えていることなどを伝え、学生の意識を変える。

2) 電気システム 세미나では3年生で10名程度を1教員で担当し、そこでは講義ではできない学生との意識交流を行っている。その中で学生への期待を伝えることができる。

3) 卒論では合宿を行う。合宿により学生間、学生と教員間でコミュニケーションが良くなる。学生側の意識が間違いなく変わるので大変良い具体行動であると考え。

4) 同じ研究分野の他大学の教員と11月頃に卒論合同中間発表会を実施しており、そこで卒論生全員発表させる。学会ではなく経験を積ませるだけのものであるが、それに参加し学外を見たことによる意識の変化が大変大きく、これも元気を高める一つであると考え。(電気システム工学科)

- 2部建築学科には2級・1級建築士などの資格獲得を目指す社会人が多い。建築士資格だけでなく、できるだけ建築全般の奥深さ、面白さを伝えられる努力をしている。設計課題や卒論などが完成し、相応の評価を受けた場合、自信と元気が高まると思っている。(建築学科2部)

<建築学部>

- 「学生の元気」を高めるためには、教員自身が元気である必要がある。教員は常に元気な様子で学生に接するように心掛けている。また、他大学との交流を活発化して他大学の学生の雰囲気味わってもらい「学生の元気」を高めるのに有効と思い、学会支部等の研究発表会に出来るだけ参加してもらっている。(建築学科)

- 3年次7月からの研究室配属によって、少人数での各種相談に対応する。

学外で活躍している専門家をお呼びして、講評やミニレクチャーを依頼。

卒業生との交流を通して学生に自分自身のキャリアイメージを持ってもらう。

外国の大学との交流によって、学生の視野を深める。

様々なジャンルの専門家によるレクチャーシリーズの実施。

海外渡航奨励金制度の実施により、学生の自主的な海外研修を奨励。

全学年設計講評会を実施して、1年生から4年生までの相互理解・交流を奨励。(建築デザイン学科)

<情報学部>

- 学生の元気とは勉強すれば理解が進み新しいことができるようになり、進むべき道が少しずつ見えてくることにより、さらにやる気がでることである。元気とは精神的なやる気だと考える。単位をとればそれまでにはなかった知識と応用力が身に付くことを保障するが、いい加減な勉強態度では単位はとれないことを教えている。2部担当の先生方には簡単に単位をやらないようお願いしている。(情報メディア工学科)

<GE学部>

- 元気がない学生が目についたら積極的に話しかけるようにしている。(GE学部)

<基礎・教養教育部門>

- 本大学に来て特に感じたことは「授業のやる気度」と学生の「元気」とは違っていることと、一般的に「元気」が感じられないということ。特に新宿のエレベーター内での無関心さに驚いた。「目を輝かして授業に臨む」「ハキハキした言葉使い」「先生との気の利いた受け答え」「学生同士の活気に満ちた

2. 日常生活

「授業・レポートのこと」「就職のこと」に対する悩みの山場は3年生で訪れる。
サークル加入率やアルバイト就労率の低さが相談相手の範囲の狭さに影響？

(1) 日常生活で気にかかっていること・悩んでいること

- ① 日常生活で悩んでいることは「授業・レポート等勉学上のこと」61.4%（1年生 66.7%・2年生 65.2%・3年生 71.0%・4年生 38.5%・東京理系 51.1%）
- ② 次に「就職のこと」53.0%（1年生 33.3%・2年生 54.5%・3年生 72.6%・4年生 53.8%・東京理系 41.1%）と就職予定者が多いため、理系平均と比較すると不安を感じる学生が多い。
- ③ 「自分に性格や能力」も含め、進路に関わる不安や悩みは3年生で最も多くなる。

日常生活で気にかかっていること（いくつでも）

(%)

	生活費・お金		授業・レポート		専攻分野や進路		就職		自分の性格や能力	
	工学院	東京理系	工学院	東京理系	工学院	東京理系	工学院	東京理系	工学院	東京理系
1年	56.5	51.1	66.7	59.3	34.8	28.8	33.3	26.5	34.8	31.4
2年	39.4	43.6	65.2	57.0	31.8	34.5	54.5	41.8	31.8	31.2
3年	43.5	42.0	71.0	47.2	41.9	42.0	72.6	62.2	41.9	30.7
4年	59.6	49.6	38.5	35.9	21.2	26.1	53.8	38.0	32.7	31.4
計	49.4	46.8	61.4	51.1	32.9	32.8	53.0	41.1	35.3	31.2

(2) 相談相手

- ① 相談相手が「いる」69.5%で、全国理系平均 75.9%を 6.4ポイント下回る。特に男子は 65.0%（女子 86.5%）と全国男子の 74.8%より 9.8ポイント低い。
- ② 相談相手は（いる人を100として）、「友人」49.6%（男子 52.3%・女子 42.2%）、「両親」23.7%（男子 24.9%・女子 20.0%）と続く。
- ③ 相談相手は「いない」30.5%（男子 35.0%・女子 13.5%）のうち、「欲しい」は 4.4%に過ぎず、男子は半数以上が「どちらともいえない」と回答した。

(3) 東日本大震災以降の意識と行動の変化

- ① 意識が高くなった 男子<女子 【防災への意識】【社会貢献】【社会全般への関心】【家族】
- ② 意識が高くなった 男子>女子 【物事に取り組む姿勢】
- ③ 【自分の将来や進路について】「変化があった」40.2%（男子 40.2・女子 40.4%）と、全国理系 30.2%と比較しても、影響を受けた人が多い。
- ④ 原子力発電所の運用については「今すぐ…」「将来的に…」の<廃炉派>37.7%（男子 36.5%・女子 42.3%）、「規模縮小…」「現状維持」「積極的に…」の<推進派>52.6%（男子 53.7%・女子 48.0%）と、全国的な男子の特徴と併せ、女子も<推進派>が<廃炉派>を上回る。

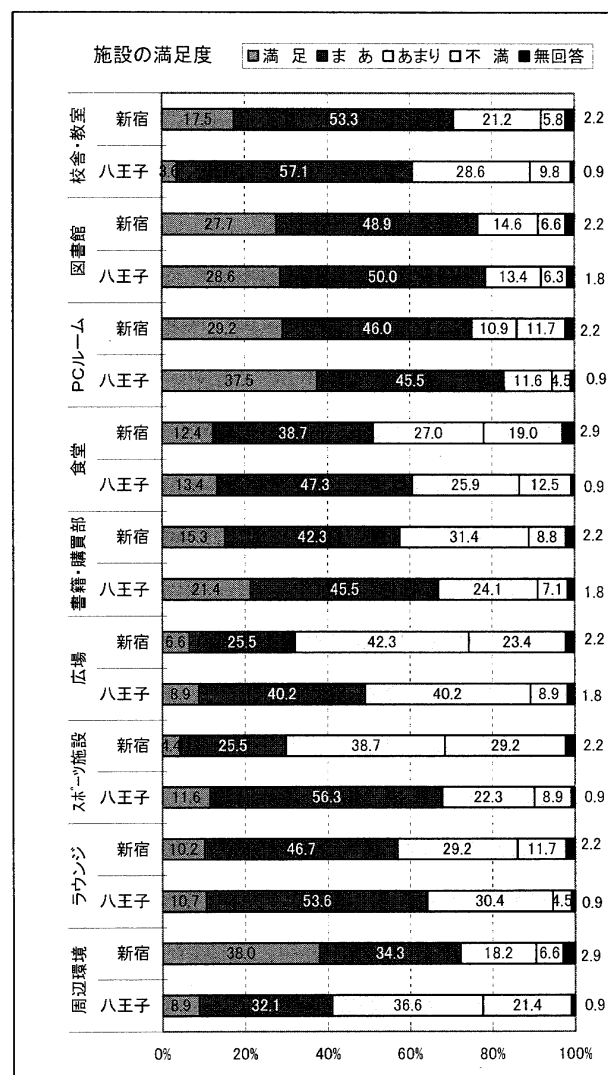
3.大学生生活

(1) 大学生生活の重点

- ① 「勉強第一」25.3% (男子 22.8%・女子 34.6%)、「ほどほどに組み合わせた」22.5% (男子 21.3%・女子 26.9%)。次いで「趣味第一」18.9% (男子 21.3%・女子 9.6%) で、男子の「趣味第一」は、全国平均より 8.3 ポイントも高い。
- ② 大学が「好き」78.4% (男子 76.1%・女子 86.6%)。全国平均 87.7% (男子 85.6%・女子 90.4%)。学生生活が「充実している」76.3% (男子 74.1%・女子 84.6%)。全国平均 85.9% (男子 82.9%・女子 89.7%)。いずれも男子の前向きな回答が低い。

(2) 大学について

- ① 授業についての満足度は「幅広い知識が得られる」「専門的な知識が得られる」「先生が授業に熱心」で 7 割以上が満足している。
- ② 施設については「コンピュータールーム」や福利厚生施設で八王子キャンパスでの評価が高いが、「大学周辺環境」は新宿キャンパスでの満足度が上回る。
- ③ 「今の大学に入ったこと」には男女ともに 7 割以上が満足している。



(3) 就職について

- ① 就職予定者は 67.9%と東京理系 (43.4%) と比較すると 24.5 ポイントも高く、<就職への不安>を「感じている」学生も 87.2%に上る。就職予定者を 100 とすると 1 年生は 97.2%が不安を感じており、東京の理系 1 年 (88.9%) を大きく上回る。
- ② 就職予定の 4 年生 (71.2%) を 100 とすると<就職への不安>を「感じている」は 75.7%。不安の内容は「就職ができるか」が 48.6% (東京理系 4 年 31.4%) と半数近くが不安を抱えている。
- ③ 就職活動を行った 4 年生は 80.7% (東京理系 55.5%)。
- ④ 就活費用(全て 4 年生の数値) は有額平均 91,200 円、そのうち自己負担は 63,400 円。東京理系が合計 105,700 円うち自己負担 56,300 円と比較すると自己負担は大きい。

会話」「ユーモア」そして何よりも「元気のあるあいさつ」が「学生の元気」にあたると考える。(基礎・教養教育部門 外国語科)

- 1) 授業はじめに個々の点呼をとり、大きな声で目を合わせて返事をさせている。声の小さな学生には再び返事をさせている。

2) 学生の健康状態を把握するようにしている。(元気は健康であってこそ備えられるものだと思います)

3) 授業におけるグルーピングの工夫

①桂先生の事例：団体種目でチーム分けを行う際、初めから学生をランダムに組み分けず、まずは仲の良い友人同士や、少し喋ることの出来る友達同士を組ませ、できるだけチーム内でコミュニケーションをとらせることを優先する。なぜならば特に1回生では、1人で他人に喋りかけることができずに困っているケースが多く見られるからである。何人かのコミュニティができていれば、そこに別のグループが加わり、早い段階で友人の輪が広がる。この取り組みは実際に学生と話し合い、実践している。競技の上手い下手よりも、最初はチーム内での会話や笑い声を増やすことに重点を置くことで、その後の授業がにぎやかで円滑に進行する。

②上級者と初級者をグルーピングし、わけて授業をすすめることが良い場合と、両者を合同で行う場合がある。後者の場合、上級者が初級者を教えコミュニケーションが増える場合があり、学生同士の人間関係が深まり活気がでてくることがある。

4) 講義内容におけるアニメの活用

桂先生の事例：「講義科目」：学生が興味のあるアニメや物事をできるだけ授業の内容に盛り込む。例えば、運動能力を向上させるための取り組みとして、運動神経の仕組みや脳の話をするが、難しい教科書の絵を出して話をしても学生はなかなか興味を持たない。ところが、アニメ「スラムダンク」ではこの仕組みが非常にわかりやすく描かれており、学生の誰もが好きなこのアニメを題材にして話をすると、非常に興味を持って聞いてくれる。他にも、ワンピースやガンダム、エヴァンゲリオン等の人気アニメの中でも、健康や運動、コミュニケーション能力の大切さを学べる場面が多く描かれている。さらに、スティーブジョブズなどの世界の偉人達も健康や運動を重要視しており、これらの内容を盛り込むことで、学生達が楽しみながら授業に参加できるようになった。(基礎・教養教育部門 保健体育科)

<事務部門>

- ・他者（他学年、他大学の学生、大人、社会全般）とかかわる主体的な活動への参加
 - ・充実した大学生活を送ること。具体的には、学業、学生プロジェクトなど
 - ・「キャリア支援教育」（就業力育成、産業界のニーズ等の補助事業を含む）の目的にもつながるが、そこでは「元気」という抽象的なものでなく、具体的な能力や行動特性として測定可能なところに落としこみ、教育改善につなげる必要があると考えている。(学長企画室)
- 当センター業務においては、「学生の元気」を高めるということは、研究・学習において、学生にプログラミングの意欲を出させることにあると考える。そのために、学生にとって、使い勝手の良いプログラミング環境を整えることが必要である。センター業務としては、通常から、受付対応、プログラミング相談窓口を常設しており、十分なコミュニケーションをとることを心がけている。また、システムに関する要望を常時受け付け、予算の範囲でできるかぎりの対応を行うとともに、システム更改

においては、学生にアンケート調査を行っている。このような対応により、学生にとって使い勝手の良い、また、学習意欲の湧くシステム作りを心がけている。(情報科学研究教育センター)

- 学生相談室の仕事そのものが「学生の元気」を取り戻すことにあるので、それを成果目標として対応している。ポイントは「学生の相談(悩み)の内容を傾聴し、原因を追究し、学生の希望に沿った改善策を共に考え、実行支援をする」こと。
一言でいえば「悩み事や心配事がないこと」。修学や対人関係、進路関係などの学生生活や私生活において不安や悩みなどがなく、目標や望みが叶えられて、生活が充実していることだと考えている。(学生相談室)
- 訪れた学生が笑顔で帰れるように笑顔で接し、含みを持たせない会話に留意している。学生の元気とは笑顔だと考えている。(健康相談室)
- 当課は学生のキャリア支援を担う部署でもあるので、特にインターンシップ業務において「自己紹介書作成講座」や「マナー講座」の開催などを通じ、学生の表現力を培うことを目指している。一般に学生は若者であり、ほとんどが何らかのポテンシャルやバイタリティを有しているはずなので、それを発現できた時に「元気がある」と他者から認識されるのではないかと思うし、それを引き出すことが我々の役目である。当課の取り組みの中で「学生の元気にあたると考えられる事例」を挙げれば、インターンシップの際に、自己紹介書の書き方や立ち居振る舞いの仕方についてコツをつかんで堂々と社会人と接している学生の姿がそれに当たるのではないだろうか。(学習支援課)
- 学生と接するときには、明るく、ハキハキとした態度で接するよう心がけています。もちろん案件によりまずし、威圧的な元気さ等、不快にならないよう配慮しています。(教務課)
- 就職支援課は社会人としての心構えや常識、そして何より人間としての所作を教え伝えることも役割と日々認識し支援にあたっている。元気とは、問題を前向きに解決でき、行動を自らの判断で行えるエネルギーを常に有することと思われる。単に明るく目立つというものでなく、周囲からの信頼も持ち合わせていないといけない、「信頼に値する人物」ということであろう(就職支援課)

<法人部門>

- センターにて展開している事業に支援参加している学生諸君に対し、事業展開に伴い個々に具体的な教育効果等がもたらされるように誘導、他者の評価を受けること等を通して自身が自信を持ち得ることが出来るように留意、併せて愛校心等を醸し出す事を試みている。これらは、すべて学生諸君の元気の源となり得ていることがヒアリング調査等で認められている。(理科教育センター)
- オープンカレッジでは、年間、約160の講座をつくっている。科学、鉄道、建築・デザイン、ビジネス、デジタル、歴史と文化、教養と趣味、の7分野で、学生も講座が受けやすいよう、受講料は一般の2000円(1講座)に対し、おおむね4分の1の500円に設定している。科学分野の、たとえば、講師と受講生が双方向性で学ぶ「サイエンスカフェ」などは学生も参加しており、なにがしかの刺激は受けている。2級建築士の学科試験講座や、知的財産管理技能検定2級・3級対策講座などは、学生も受講できるよう意識し、講座日時も土曜、日曜日に設定しており、受講料も、一般の受講料に比べて、安い金額になっている。工学系の大学とはいえ、学生には、俳句や短歌、歴史や文化なども受講してほしいと思っているが、カリキュラムの関係で、ウィークデーでの講座は、なかなか受講できないのが現状である。「学生の元気」につながっているかどうかは分からないが、講座をつくる際、学生も意識し、様々なことに興味を持ってほしいとの願いを込めたい。(オープンカレッジ)

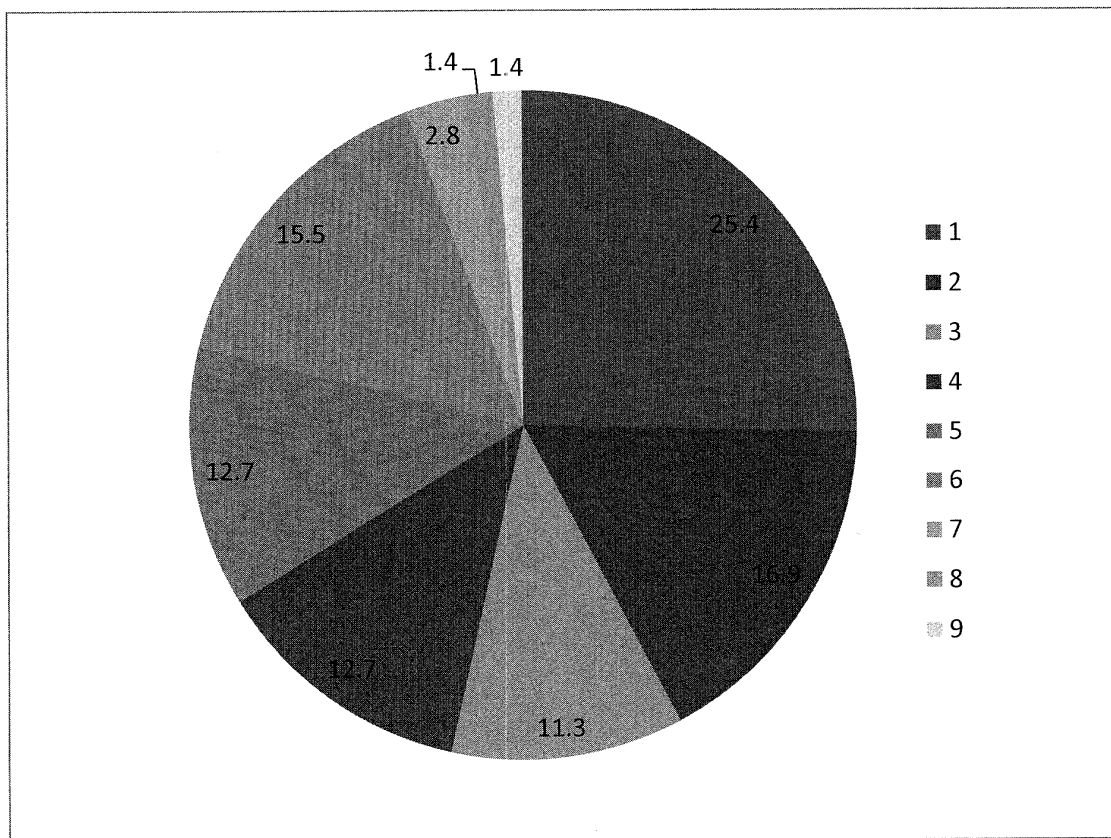
- 高校生（受験生）に対し、学生自身が大学の広報の一端を担っていると意識させることで、学生のやる気や愛校心を奮起させ、「学生の元気」を高めてもらうよう留意している。本部署では、オープンキャンパスやキャンパス見学の際、「学生の元気」によって本学の魅力が伝わるように、学生を全面に出す運営を行っている。また、大学案内作成においても、学生生活（学生の元気）が受験生に伝わるように誌面の工夫を行っている。（入学広報部）

<その他>

- 当生協には学生委員会という組織が理事会のもとに設置され、新宿・八王子の支部にわかれて活動している。各支部にはそれぞれ「班」があり、店舗班・食堂班・共済班・平和班、などにわかれて日常活動をおこなっている。また、委員会の運営は学生たちから選ばれた幹部が中心になっている。八王子支部では店舗班の学生たちが中心になって、各種「バトル企画」がおこなわれている。おにぎり、アイス、生チョコレート、などの人気投票を店内でおこない、その結果、人気が高かった商品を特売するという企画である。おにぎりのセールに当たっては、学生がつくった動画を店内で流し、宣伝もした。同じ八王子支部の食堂班は、中華パーティ、ケーキバイキングなどを企画し、八王子キャンパスの学生たちが交流できる機会をつくっている。また、八王子食堂の下膳コーナーで機会ストップをふせぐため、下膳口に当番でたち利用方法をよびかけている。新宿支部では食堂混雑緩和のためスピード席を設置し、学生たちがよびかけている。また、食堂の利用実態調査、学生の文具利用調査などをおこない、店舗・食堂に提案している。新宿・八王子共済班では、「学生総合共済」の給付事例をもとに事故・病気予防提案をおこなっている。新宿では給付ボードを学生たちが作成している。また、八王子では自転車点検活動をおこなっている。（学園生活協同組合）

2. 貴部署・機関の活動を進めるとき「学生を元気にする」ためにどのようなことを意識していますか。
(複数回答可)

- ① 学生とのコミュニケーションを十分とる
- ② 学生の反応をとらえる
- ③ 学生の生活や活動など実態やニーズを把握する
- ④ 学生の希望（要求）にもとづき、それが実現できる条件整備に努める
- ⑤ 「学生が元気」となるような活動課題の提示（提案）をする
- ⑥ 「学生が元気」となるための活動の進め方などを支援する
- ⑦ 学生は既に元気である
- ⑧ 特に意識していない
- ⑨ その他



【回答】

- 1～2回生と3～4回生が八王子と新宿に分かれているため、下級生が上級生を見て学ぶという機会が大変少ない。もう少し頻繁に1年から4年さらに院生までがお互いに知り合い、経験を共有する機会がもてるとよいのではないかと考えている。(建築デザイン学科)
- むやみに授業を進めない。わからなければ理解するまで付き合う。(情報メディア工学科)
- なぜ元気がないか把握する必要がある。(GE学部)
- ① クラスではなるべく明るく、大きな声で学生に接するようにしている。(ただし、この点は若くて元気のある先生の方が上手い)

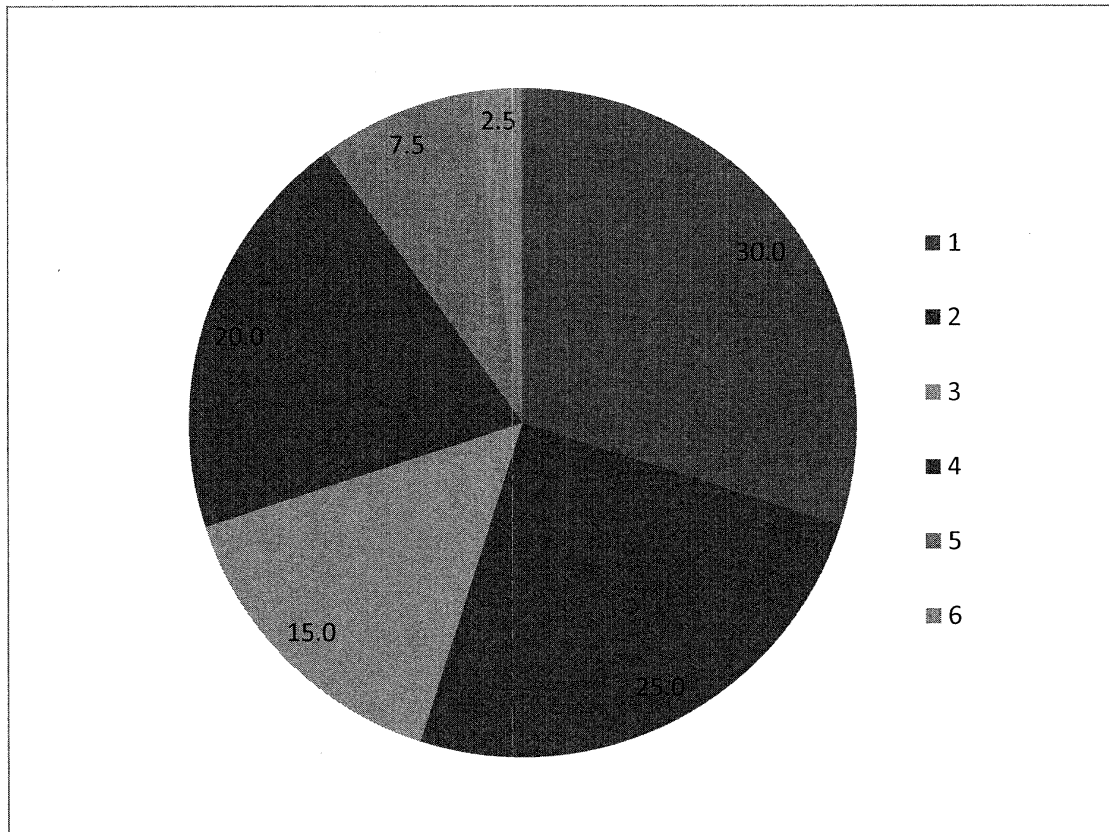
- ② そして、学生に「人生について」「将来について」なるべく「元気の出る」英語のビデオを見せている。困難を克服した事実に基づいたものに人気がある。
- ③ 少しクラスで仲間はずれになっているような学生になるべく話しかけるようにしている。
- ④ 自身の学生の頃の話（失敗談）等を話したりしている。
- ⑤ キャンパス内で見かけると駆け寄ってでも声を掛ける。

しかし、前任校と違い学生がなかなか心を開いてくれない。（基礎・教養教育部門 外国語科）

- 演習系授業では、学生が積極的に取り組める課題や複数のグループをつくり、相互の協力や意見交換（コミュニケーション）をしやすい環境をつくっている。（基礎・教養教育部門 保健体育科）
- 心理性格的な面から「思い違い」や「自己否定的」に物事をとらえていたり考えていたりするケースが多いので、その見方や捉え方を変容することをアドバイスすることがある。（学生相談室）
- 彼らは彼らの置かれている状況や立場の中で今の持てる力を持って自分なりの「元気」をもっている。時代の流れのなかですべての基準は変わっていく。自分の頃と同じではない。（健康相談室）
- 掲示版などへの要望、あるいは、直接窓口への要望などに対しても迅速な対応を心がけている。（情報科学研究教育センター）
- 出所進退を明らかにすることを徹底させている。挨拶、礼儀、とにかく意思の発揚を活発にさせるように指導している。また元気という点においては、特に就職支援では所謂大学名による自身の無さが露呈するケースも多々ある。これが一番の懸念材料である。歴史と伝統に根ざした私学に学ぶ誇りを持たせるために、それらも説くようにしている。（就職支援課）
- 学生の成長を間近にみられることは、大学生協職員としてとても幸せなことだと思っている。委員会内の人間関係、学業との両立、活動そのものの方向性など、生協学生員のメンバーもいろんな悩みをかかえていながら、それらを一つひとつのりこえている。今後も彼ら、彼女らを見守っていきたいと思う。（学園生活協同組合）

3. 貴部署・機関で、学生を元気にする活動を進めるために今後何が必要だと思いますか。また予定されていますか。

- ① 学生とのコミュニケーションを向上するための対策が必要
- ② 学生の実態把握のための対策が必要
- ③ 学生の希望把握のための対策が必要
- ④ 学生の反応を知るための対策が必要
- ⑤ 各部署・機関の必要に応じて活動を行うべきであり、学生の元気を一律に求める必要はない。
- ⑥ 特にない



【回答】

- いろいろな学生がいるため、どのような学生をターゲットにして対策を実施すればよいのか議論が必要である。(機械システム工学科)
- 学生はあまり自分以外のことを見ていない。視野を広げてやることで学生のやる気が少しずつ引き出せると考えている。そこで例えば今年行った I S A T - S のような外部も含めた発表会のようなことをやらせるのも一案。1年生から4年生までが何らかの形で一堂に会すなど。あるいは電気学会東京支部で実施している学生発表会のように新規性など学会が求めるレベルを外して、互いに発表しあつて経験をさせることを第一に会を開催するなど。(私の研究室では修士1年生に東京支部の会で発表させている) クラブ活動類を活発にするのが「元気」ではないように思う。(電気システム工学科)
- 社会で成功し、元気なOB/OGのデータベース化、講演会の開催・表彰制度など、実例に触れる機会が欲しい。(建築学科2部)

- たとえば、実験の前に、実験の目的・意味・重要性を学生に十分に説明して学生に積極的に実験や学内行事に参加してもらえるようにする。(建築学科)
- 暗記物あるいは持ち込み資料を転記すればよい問題、予想問題を教えるといった試験では、単位を取得しても何も得るものがない学生が多いのではないかと思う。せめて単位をとればやる気ができるような授業と試験をすることが必要かと思う。ただ、不合格者がたくさん出るのでそのサポート体制を整えなければならない。さらに、アンケート結果が悪くなるので学生によるアンケートはやめたほうがよい。アンケートには工夫が必要。(情報メディア工学科)
- 学生全員が参加できるイベントがあればよいのではないか。学祭は全員が参加しているのではなく、一部の学生が参加している。(GE学部)
- 大学内で「元気よくあいさつをしましょう」「エレベーター内でなるべく声をかけましょう」キャンペーンを是非して頂きたい。専門の先生方はさらに、将来設計のようなものをご提示頂きたい。(基礎・教養教育部門 外国語科)
- ・保健体育科目の場合、科目の再履修率が極端に低い。出席を重視し、レベルに応じた絶対評価をしていることが大きな理由だと考えられるが、単位がとれることは学生にとって元気の源の一つになっているのではないか。
 - ・ストレス解消と健康増進の効果がある保健体育科目は元気の源ではないか？
 - ・保健体育科目の演習系授業の場合、開講種目の意義を学生にしっかり伝え、授業を展開する中で納得させながら受講させることが必要。(スポーツ系、身体調整系、武道系の3つのカテゴリーで種目を開講している意義の深さの説明)(基礎・教養教育部門 保健体育科)
- ・昨年度実施した「卒業時満足度調査」を継続し、学生の意見を聴取する。
 - ・キャリア支援教育の充実(学習支援部マターではあるが)(学長企画室)
- リテンション率の向上、休学・退学者、除籍者の対策と絡んでくる。(教務課)
- オープンキャンパスや高校生のキャンパス見学受入については、学生を中心とする組織的活動を構築していきたい。(入学広報部)
- 悩み事は「ひとりで悩まないこと」だと考えている。相談できる人をたくさん作ることと、相談しようとする感覚を育むということだと思ふ。このためにもグループ活動や部活動を進めていきたい。(学生相談室)
- 同世代のつながりだけでなく、世代を越えたコミュニケーションがはかれるよう工夫している。アドバイザーやカウンセラーと積極的に会話をしてもらっているのはその一例。また社会人OBから仕事の魅力、働き甲斐などを詳しく伝える場を積極的に創出することで就業への意識向上も狙っている。(就職支援課)
- 各部署に任せると活動が進まないのでは、どこか(SSS又は学生支援課?)が上記対策などの活動を進める必要がある。(情報科学研究教育センター)
- 各種事業展開に参画している学生諸君の意識調査を詳細および広範に実施する必要がある。また、成果が認められた場合、顕彰を積極的に行う。(理科教育センター)
- 八王子支部は大学より活動スペースとして部室を借りている。新宿は部室がないため、日常活動に支障をきたす場面がある。生協学生委員会は、生協理事会のもとに設置された委員会であるが、同時に

工学院大学の学生が参加し、自主的に活動し、生協活動を通じて工学院大学の学生生活が豊かなものになるよう活動している団体である。新宿支部の学生委員会についても八王子同様に、部室スペース借用について検討いただきたい。(学園生活協同組合)

2. 勉学、クラブ・サークル、ボランティア、就職、その他の活動で、学生が元気な事例をご存じでしたらお書きください。

【回答】

- 卒論、国際学会発表などで元気に活躍する学生は多いです。(学長)
- 行く前は、英語を嫌がっていた大学院生が、USA の大学研究室でのゼミや、国際学会での発表の経験後に、英語に対しても積極的な姿勢に転換し、研究にも自主的に取り組むようになったこと。行く前は、日本国外へ出ることを嫌がっていた学部4年生が、タイ国での大学研究室での合同ゼミに参加して、積極的に交流する気持ちに転換し、勉学にも自主性が目立つようになったこと。(機械工学科教員)
- 機械工学科の2年生は、機械実験において、一年生は機械工学基礎演習Ⅱにおいて、ものづくりの授業を行っているが、この授業の時は、学生は元気に取り組んでおります。(機械工学科教員)
- 勉学：卒論、軌道に乗ったら元気になります。就職：決まると全く元気になります。(機械工学科教員)
- 活気のある研究室の学生は、元気であるように思えます。(機械システム工学科教員)
- 八王子校舎のグラウンド群で、以前よりも練習、試合などを行っている風景を見かけるようになった。(応用化学科教員)
- 授業中質問するように言っても、誰も発言しないが、用紙を配り質問があれば書いて提出するように指示すると、多数の質問があり、授業への関心の高さが伺える。(応用化学科教員)
- 研究の進展のために熱心に実験に取り組む(毎年数人も出る)。国内外での学会発表などに進んで喜んで取り組む(毎年数人も出る)。(応用化学科教員)
- 元気の定義を「前向きでアクティブな精神」と考えると、見かけのアクティブな面が見られる学生が少なからず多くいるように感じます。しかし、これらが両立している学生はどの程度いるのでしょうか。就職においてはアクティブな学生の内定が早い傾向にあります(環境エネルギー化学科教員)
- 後述のように、このアンケートにおいて「学生の元気」とは何かが不明確なので議論にくい。そのことを措いて、我々がある学生を「元気」だと感じるとき、彼らは正課もしくは課外の活動において活発であったり、量的もしくは質的に高い成果を得ていたりする、と考えるものとする。このとき、例えば現状の日本における厳しい大学新卒就職活動を乗り切って、内定等の成果にこぎつけている学生は、その事実だけで十分に「元気」であるといえるのではないか。また、各種学術会議等で受賞する学生等が多数存在することから考えても、そのような事例は枚挙にいとまないと考えられよう。(電気システム工学科教員)
- 学生は先端的な測定器・装置を与えると、結構興味を持って実験に取り組むようになるので、目的を与えることも重要であるが、手段を与えることも重要である。(建築学科教員)
- セミナー、卒論などでは、いやでも自分で動く必要があり、元気につながる。このような機会を早期に設けられるとよいが、一般には難しいか。部活、創造活動、理科教室、支援活動に参加している学生は、早期から元気な学生となる。勉学に熱心な学生は、それだけで元気。(建築学科教員)
- 八王子校舎11号館実験室内で黙々と実験に励む学生の事例を紹介したい。建築構造の実験は重量物

4. 他機関や他大学における、学生を元気にする取り組みの事例をご存じでしたらご記入ください。

【回答】

- 全般的に明治大学に勢いがある。(機械システム工学科)
- 1部の授業では八王子の実験施設を利用した学生のコンペを実施し、優秀学生の表彰などを実施している。(建築学科2部)
- 1) 学生の全国大会や都道府県を代表するレベルの大会出場での全学的な支援措置(応援の呼びかけ、応援に出かけることができるよう公欠措置)。
2) 東京芸術大学の場合、「古美研」(2週間の宿泊を伴い奈良や京都の美術品や芸術作品を見学することで単位となる。この期間は公欠措置をとる。)や四芸祭(三日間。東京芸大、愛知芸大、金沢工芸大、大阪芸大)というスポーツ大会がある。参加者には公欠措置がある。)専門の視野を広めたり、交流を深めて元気になったりする企画と位置づけられる。
3) 運動部のユニフォームに大学オリジナルデザインのワッペンを付け、士気を高めている学校が多い。(基礎・教養教育部門 保健体育科)
- 芝浦工業大学 S.O.S (Support Of S.I.T) (教務課)
- ・自校教育を低学年から(誇りと責任)。成城大学他各校。
・自己肯定感上昇プログラムの導入(キャリア教育として)。ものづくり大学等。(就職支援課)
- 芝浦工大でもオープンキャンパスの実施や進学相談会の実施の際に、学生の姿を高校生に見せるようにしており、学生の元気が魅力的に伝わるようにしている。(入学広報部)
- 多くの事例が既にあると考え得る。ただ、それらについて、個々の学生諸君が有している特徴等を積極的に評価するシステムが欠如しているように思われる。(理科教育センター)
- 前任でいた早稲田大学では、大学として学生のボランティアを積極的に組織していた。(早稲田大学ボランティアセンターWAVOC)。生協の学生委員会活動にかぎって言えば、全国の大学生協で豊富な活動事例がある。工学院大学の学生委員会も参加した「全国大学生協連総会・全国活動セミナー」でも様々な活動事例が紹介されている。(学園生活協同組合)

5. その他、「学生の元気を育てる大学」について、貴部署・機関の課題に限らず今後の大学のあり方も含めてご意見がありましたらお聞かせください。

【回答】

- 大学近隣の企業との共同研究を進められる取り組みなどを行い、卒論学生や大学院生が企業の方から社会人としてもあり方を直接学べるような工夫が必要と思われる。例えば八王子近隣企業との産学情報交換会などを開催して、共同研究につなげるなど。(機械工学科)
- 自分の研究室の卒業生は30代独身者が多く、理工系男子学生が女子学生との出会いが少なく社会人では忙しくて時間がとれないことなどが原因であると考えられる。(そのほか雇用や年収の問題もあり原因は複雑であるが)エンジニアとしてがんばっているが、指導教員としては少し悲しいことである。この結果は少子化につながり大きな社会問題である。研究室単位では、文系の大学と交流をおこなうなど努力はしているが、男女の出会いに関しては元気のでる学生生活の要素のひとつと考えられ、今の時代は全学的に取り組む問題であろう。OBに聞くと、八王子に戸板女子短大があったころは、それなりに本学と交流があり楽しかったようであるが、最近の学生は新宿・八王子ともあまりそういった話を聞かない。カードゲームや2次元(アニメなど)の世界も悪いとは思わないが、3次元の世界にもっと目を向けさせるためにはどのような事が必要か大学側も考えなければいけない時代であると思われる。下記のような学問を本学でも検討したほうがよいのだろうか。

http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/opinion/society_081125.htm (機械システム工学科)

- 学生一人一人の様子を絶えず見守ることが大事ではあるが、教員の資源は限られているので、効率を求めていかざるを得ない。対人関係が苦手であるなど、問題を抱えている学生は同じような特徴を持っている。そのような学生を見つけ、教員間で情報を共有することで、細やかに対応が可能ではないかと考えている。学生の抱えている問題の中には、教員では手に負えないこともあり、学生相談室のカウンセラーとの連携も重要であろう。また、後援会を介して家族との連絡も大事かと思う。問題を抱えた学生へ対応する一方で、積極的に修学に取り組んでいる学生への対応もないがしろにできない。知的好奇心を喚起するために、教員の研究活動などの紹介を積極的に行うべきかと思う。(応用化学科)
- 成績優秀、社会貢献などを行った学生の表彰や奨学金制度の充実、よい学生を集めるためのHPの充実など。2部は今後高校生を集めようとしても無理。1部と併せて、社会人向けの昼夜間開校などの大きな改革が必要。(建築学科2部)
- コミュニケーションを取るためには、昼食や夕食時に学生と一緒に過ごすことは大変重要なことであると認識している。単に経済的な理由で新宿の夜の食堂を閉鎖しているのはいかがかと思う。(建築学科)
- 学生の生活において、何もしていない学生がいる(部活動・アルバイトなど)。積極的に外部と協働をとるような人物を育成するのがよいかと思う。(GE学部)
- 1) 大学は、ものづくりに限らず部やサークル活動をもっと支援する。
2) クラブ顧問を多くの教職員が引き受け、積極的に学生の支援する。教職員と学生の交流が盛んになれば、学内が明るくなる(基礎・教養教育部門 保健体育科)
- オリキャン、ガイダンス、キャリア教育、授業、学生支援、就職支援といったものが、それぞれ別々

(数百キロから数トン)を扱い、0.1mm 程度以下の変形を計測し、建物が壊れるメカニズムを推察する。実験準備段階では「動の肉体労働」であり、加力・計測は「静の頭脳労働」である。酷暑だった夏も、師走の寒い時期も冷暖房装置の無い11号館実験室内で黙々と実験に励む学生たちは素晴らしい。ただし、その姿は元気かと言うなら多少の疑問を抱く。元気とは何を啓発することも含まれていると考えるからである。八王子校地の片隅で行われている状況を1年生・2年生は観る機会が稀である。よって、先輩学生(卒論生・大学院生)が直向な姿を彼らは知らない。(建築学科教員)

- 建築学部の3.11ボランティアの活動に参加している学生。東京駅改修模型作りに参加している学生。本研究室で日本医療福祉設備学会併設展示の協力をしている学生。(建築学科教員)
- 理科教室で子供に教える時、卒業研究で乗ってきた時など、本当に生き生きしています。そういう機会は数多くあると思うので、それらを調査して、結果としてその支援を充実させて勉学や社会活動の発展につなげられると本当によいです。(建築学科教員)
- 建築学部の学生の場合、修士になると、設計コンペに応募する学生が増えてくるが、彼らは非常に積極的にコンペに取り組んでいて、いわゆる「元気」です。(建築学科教員)
- 学外での国際交流(日本、韓国、香港)に自費で参加した学生が数名います。異質な文化、価値との接触が発火点となり、元気を得ています。外部との交流、拙著区が重要と思います。(建築デザイン学科教員)
- 演習科目の授業中や、研究室での合宿、新宿のB1や食堂など、友人等と気軽に話せるような自由度の高い場所では、比較的元気な学生が目立つ。(コンピュータ科学科教員)
- 講義後に質問に來たり、メールで問い合わせするなど勉学に積極的な学生が数名います。(コンピュータ学科教員)
- 学祭委員はまとまりがあり、1~4年の上下関係が出来ていて、活発な感じがする。建築の二年生で、建築について研究・勉強するサークル的な集団があり、意欲的な学生が多い。(基礎・教養教育部門教員)
- 学習支援センターを来訪する学生は、勉学に対し問題意識をもっているからこそ訪れるわけですから、小職の接する学生は、「おおむね元気」といえます。ただし、私の担当する科目「化学」に限定しますが、「化学概論、化学I、IIに履修届け」をしている学生の全数に対し当センターを訪れる学生数が若干少ないように思います。「化学の学力」から見て来訪してほしい学生はもっと多いはずですが、来る学生に限られていて、その学生が多数回きているようです。したがって活気はあるのです。学内により広く親しまれように努めたいとおもいますので、ご支援を期待します。(学習支援センター教員)
- 昼休みの時間等、広場で大きな声で話しているのを見かけます。(学習支援センター教員)
- 3大学連携授業として、東日本大震災の被災地に授業の一環としてボランティア活動に行った際に、女子学生を中心に仮設住宅の方とコミュニケーションを図ったり、他大学の学生と一緒に活動したりと積極的に元気に活動していた。また、3大学連携授業は希望学生を対象に授業を行っているが、建築学部1、2年生はこれまでの学生と比べ、積極的に勉強やボランティア活動に興味を持って参加している。(TKK助け合い連携センター教員)

に実施されているのが本学の現状であるが、大学として育てたい人材像、ディプロマポリシーなどを共有して、トータルな施策にしていく必要があると考えている。思いつきでいろいろな施策を行うのではなく、大学がポリシーを持ってそれに沿った施策を実施することが重要と考える。(学長企画室)

- 社会、大人の考え方から変えなければ学生を元気(定義を健康で活気があるということにするなら)にすることができない。それは往々にして未来への希望や社会への安心感からわき上がることだと思っています。学生を知る事より先にまず私たち大人が自分を知る事から始めなくてはならないのではないのでしょうか。周りを変えなければまず自分たちが変わらなくてはと思う。(健康相談室)
- 自己表現力が不足していて、就職戦線で戦える状態になっていない学生が多いのではないか。(学習支援課)
- 大学名をもっと世の中に知らせる広報活動、キャラクターの立て方に尽力すべき。認知されているということが所属する学生の行動責任を生む。偏差値中位校は押並べて帰属意識が弱いものである。また入学直後が大切で、八王子校舎の環境も整備され満足度も上がるはずなので、通学していて楽しい大学生活が描けるよう、八王子のソフト面(特に事務方の人員確保と窓口体制)の充実をはかり、学生とのコミュニケーションを促進することが望まれる。いま八王子でおはよう声かけ運動が実施されていますが、大変素晴らしい取り組みと思います。元気な学生は元気な教職員を見て育つということです。(就職支援課)
- 学生とのコミュニケーションをとる手段としてSSS(Student Support Staff)の活動はよかったと感じる。今後も若手を中心に活動を続けて欲しい。(情報科学研究教育センター)
- 理科系大学として、専門教育を充実することが必要不可欠であり、その上で各種施策を展開することが肝要である。(理科教育センター)
- 学生の元気を育てる大学、というのはとても素晴らしい理念だと思う。ぜひ、私たち工学院大学生協も、大学様と一体となって「学生の元気を育てる」活動をおこなっていききたい。「自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。」これは、世界の協同組合の基本的な価値として、1995年、ICAマンチェスター大会において確認されたものである。このなかで謳われている、「正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値」を信条とする学生を、学生委員会活動などの実践の中で育てていくこと。これが工学院大学生協として大学様と一体となって「学生の元気を育てる」とりくみとなっていくのではないかと思う。また、大学生協は単なる運動体ではなく、事業、具体的には「福利厚生事業」を担っています。このアンケートでは学生委員会活動に焦点をあてて回答したが、当然ながら学生委員会に参加していない学生が大多数である。店舗・食堂において、学生に食事を提供し、日常生活をささえ、また勉学・研究を支援すること。学生総合共済、学生賠償責任保険など、もしものときに安心できるように支えていくこと。これらの事業活動を地道におこなうことで学生が安心して工学院大学で学べる環境づくりに役立っていききたいと思う。(学園生活協同組合)

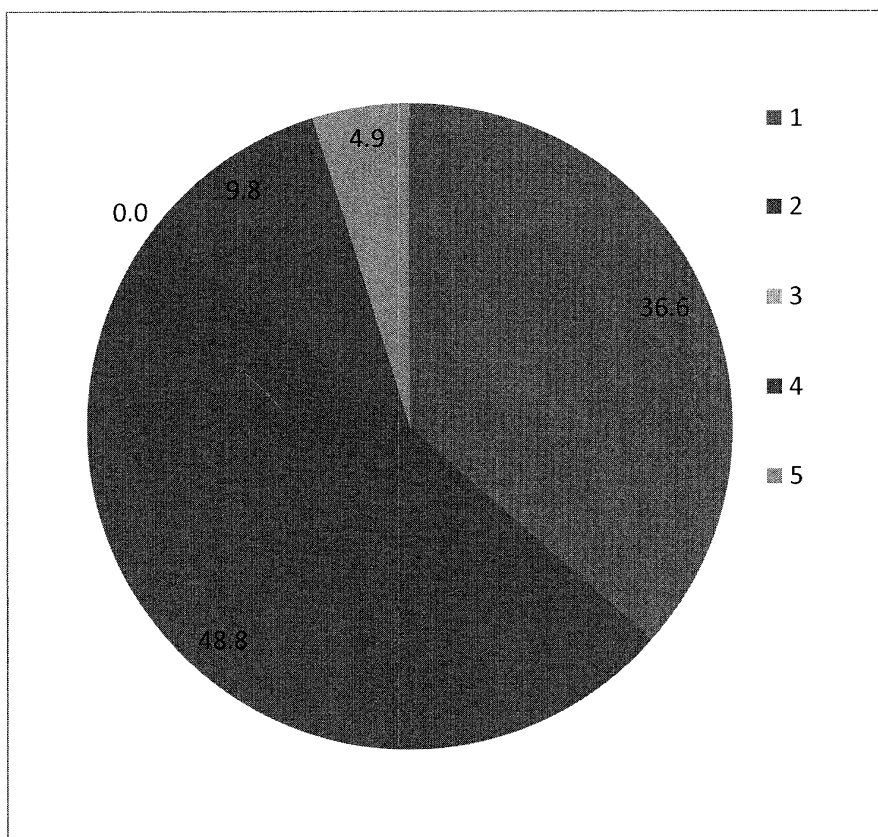
以上

「学生の元気」に関する学内アンケート(教職員対象)

本学の「学生の元気」について、現状を把握するため、本学の教職員を対象に、以下の5つの設問からなるアンケートを行った(回答数40)。

1. 本学の学生は今、「元気」でしょうか。学生の現状についてのお考えをお聞かせください。

- ① おおむね元気と言える。
- ② 元気な学生もいるが、元気でない学生が目立つ。
- ③ おおむね元気がない。
- ④ 個人としては可能性があるが、学内に元気を示す場が少ない。
- ⑤ その他



- 学ぶ事に熱意のある学生は、元気者が多い。出来るだけ楽をして単位を取得しようとする学生は、やや覇気がない。一番問題なのは、あまり友人も持たず、ただ大学と自宅を往復している学生。(所属等匿名)
- 卒業研究やゼミでは、学生の自主性が発揮され、元気であるといえます。(所属等匿名)
- 何かにかかわっている学生は元気です。(所属等匿名)
- 理科教室において、他学生と協力して準備をする姿や子供の目線に合わせて一緒に考え作成している姿など(健康相談室職員)
- 学生が元気に活動している事例については、学内動向報告に掲載し、佐藤学長補佐(学生支援担当)から主任教授会議と教授総会に報告しています。また、受賞関係は大学 Web サイトのニュース記事として掲載し、学生本人の了承が得られているものについて、出身高校にお知らせしています。(学生支援課職員)
- 就職活動に際して、文化祭実行委員など学内のイベント等で力を発揮したというPRをする学生は総じて前向きで明るい印象を受けます。実際の活動がどうかは、正直分かりませんが…。就職関連ですと、個々には元気な学生もチラホラ見受けられますが、外部(企業様等)からの大学のイメージとして、至って真面目だけど…という印象が定着しています。(就職支援課職員)
- 自治会やロボコン、鳥人間、ソーラーカーなどに参加している学生は、元気というか、論理的に文章を書いたり話したり出来る資質を、相談を受けながらいつも感じています。(就職支援課職員)
- アドミッションセンターで学生対象にアルバイトをお願いした時などに(入試の前日設営等)、精力的に業務をこなしてくれる点。(入学広報部職員)
- オープンキャンパスや理科教室など学生が主体となる活動において、主体的に元気よく対応している姿が印象的でした。(入学広報部職員)
- 今年度、第44回関東理工系学生対校陸上競技大会の幹事校を本学が勤める中で、幹事校としての役割を十分に果たし、大会を無事開催した。また、普段の活動においても学生たちが主体的に動いて活動を行っている。クラブ活動等に、加入している学生は概ね元気と言えると感じる。(入学広報部職員)
- オープンキャンパスや理科教室のスタッフとして子供や高校生に接している学生を見ていると技術だけではなくコミュニケーション能力も含めて高められているように感じる。大学案内作成のために部活動の取材を行った。勉強やアルバイトと両立しながら部活動にも全力で取り組んでいる学生さんが多いことが印象に残っている。大学院生が率先して学部生を引っ張っている研究室がある。このような頼れる先輩がいることは学生にとっても大きな財産になると思う。(入学広報部職員)
- 国際交流サマーキャンプへの参加学生は毎年、「元気な学生」達であると感じている。(積極的な姿勢で外国人学生や理科教室来場の小中学生と交流しようという強い意思と行動力があるから。)(国際交流センター職員)

3. 「学生の元気」という点から気になる（元気でない）事例や問題点についてのお考えなどをお書きください。

【回答】

- 卒論などで教員や同級生とのコミュニケーションがうまくできず、追い込まれる学生が散見されます。指導の仕方などをさらに工夫する必要があるものと思われます。（学長＝機械工学科教員とおきかえ）
- 大学が提供する場を、学生が自主的・積極的に利用するきっかけを与える工夫が大切。（機械工学科教員）
- うつ病などで大学に来られない学生が目立つ。卒論においても教員とのコミュニケーションがとれず、研究室に出て来なくなる学生が多くなっている。（機械工学科教員）
- 元気でない事例：病気、単位不足、卒論が軌道に乗らない、職が見つからない（思った職がない）（機械工学科教員）
- 外からの訪問者に対して（廊下、通路などで）アイサツがない「おはようございます」など。エレベーター内で「お降りの階はいくつでしょうか」の問いかけもせず、じーっとボタン前で立ったまま（機械システム工学科教員）
- 男子学生が多いためかは不明だが、機械システム工学科の女子学生は元気がないように感じられる。（ただし、卒論や修論で活躍している女子学生ももちろんいます）（機械システム工学科教員）
- 通学時間が長いのか、夜遅くまで起きていて、睡眠時間が短いのか分かりませんが、授業中寝ている子が多いような気がします。（高校生時代はそのようなことはしていなかったと想像しますが。）（応用化学科教員）
- 授業中の私語を注意してもしばらくしてもまた話しはじめる。授業を熱心に聞いている学生には非常に迷惑なようで、対応するように求められるが、いくら注意しても止めないし、一度止めてもしばらくすると同じ事となる。一部の学生は出席点だけ取りたいために参加しており、全く聞く気がない。つまり、勉強するつもりが全くないところが問題である。（応用化学科教員）
- 主に卒論生。就職活動であきらめが早く、あまり熱心に取り組まない学生が以前より増加している。（応用化学科教員）
- アルバイト以外に何かをやる気がない学生が多いように思います。（環境エネルギー化学科教員）
- 2. で述べて元気の定義に基づく学生は何も問題はありません。しかし、うつ病の学生やしかることで立ち上がれないような精神を持っている学生が多いのが気になります。叩かれても這い上がる強い精神を作り上げるのも大学の教育の一部かもしれません。どのようにしたら、このような学生を育てることが出来るのでしょうか。教職員で考える課題の一つです。（環境エネルギー化学科教員）
- 後述のように、このアンケートにおいて「学生の元気」とは何かが不明確なので議論しにくい。そのことを措いて、我々がある学生を「元気」だと感じるとき、彼らは正課もしくは課外の活動において活発であったり、量的もしくは質的に高い成果を得ていたりする、と考えるものとする。その意味では、元気でない事例とは、学生が成果もしくは課外の活動において活発さに欠けていたり、量的もしくは質的に高い成果を得たりしていない場合ということになる。課外活動についていえば、その活発さは学生の多忙さによって妨げられている可能性がもっとも高いと考えている。学内では、活動場所

の制約（部室がない等）や費用面もさることながら、時間的制約（土曜日や夜遅くまで講義等があるため関係者が一堂に会する機会が持てない、等）のために学生団体の活動が充分行えないケースが多数あるようである。新宿・八王子キャンパス間シャトルバスはこの意味では大きな改善であったと評価できるが、そうしたことだけでなく、土曜日の講義や 18:00 以降の講義などを少なくするなど、時間割やカリキュラムの改善を進めることは不可欠と考えられる。予算措置等が難しいとしても、このようなことが実行されることによって、効率的に学生たちの「元気」をサポートすることができる。課外活動を離れても、時間の効率的な使い方は、学生たちの心身の健康維持などに役立つはずである。正課の指導においては、学生たちの積極性のなさも目立つ。卒業論文などの研究指導をすると、多くの学生が、新たな知識を学んで高い目標に挑戦する意志を持たず、自分がいま現在持っている知識の範囲内で簡単に成果を得ようと努力することに驚かされる。実際には、そのような可能性があることをうまく指導し、サポートを与えれば、そのようなことができる学生がほとんどである（学力等の面でそれが難しい学生がいることも事実ではあるが）ことには注意が必要である。このことは、ひとつには日本の学生たちの自尊感情の一般的な低さとの関係が深いとみられるから、学生たちの自尊感情を高めるために学内だけでなく日本社会全体への発信を進める必要がある。このことはまた、学生たちが学位等を通常の商品の購買と同様に「安く（＝少ない努力で）買うのがよい」という消費者的観点から眺める悪習の広がりの影響でもあると考えられるが、これについては大学が選ばれる存在となった現在直ちに有効な対策はなく、教員の研究・教育活動の質・量を向上させ、学びによって到達可能な未知の境地への憧れを学生たちに持たせる努力を地道に継続するほかないと考えられる。（電気システム工学科教員）

- 技術系の学生は、新八の移動で疲れている。移動をいかに少なくするかについて、もっと考えるべきである。（建築学科教員）
- 元気の見えない学生のタイプ：アルバイトで消耗している。通学に長時間かかる。学業不振（建築学科教員）
- 学生が独自に集団を作り切磋琢磨している様子が見えない。互いに刺激を受ける・与える様子が見えない。例えば、素晴らしいとされる建物を見ては論じ合うサークル活動、構造解析について学び教え合うサークルなどである。以前は「建築の勉強がしたい」との希望で建築系学科に入学してきた学生が多くいた。それらの学生たちが核になりグループ学習を行っていた。見学旅行や合宿である。これが今は見られない。（建築学科教員）
- 新宿校舎の場合、講義時間以外でのんびり出来たり打ち合わせが出来たりするスペースが不足であると思われる。B1Fのラウンジも雰囲気として落ち着かない。スペースを良好に利用出来る様な点検と改修改装が必要である。（建築学科教員）
- （元気でなくなる事例）教職員が元気でなくなると、学生も元気でなくなる。教職員の後向きと感じてしまう業務が増えると、学生も後ろ向きな学習をする。教職員が「教育は神聖な義務」と感じられない姿勢をとると、学生も勉学に希望をもてない（↑ユネスコの原則。自戒を込めて。）。このアンケートをするのも意義がありますが、大学なので、まず「教職員の元気度評価」アンケートを、問うのもよいとおもいます。（建築学科教員）

- メディアに取り上げられるような、盛んな部活動があると良いですね。大学を挙げて応援に出かけられるような…。工学系の単科大学（かつ学生数が少ない？）では難しいでしょうが。新宿祭が（何故だかわかりませんが）、行ってみたい大学祭の上位に挙げられたようですが、こうした活動を支援することも必要ではないでしょうか。（建築学科教員）
- 自分に閉じこもり、可能性のある外の世界を見ようとしないう学生が多い。「自分を開く」という指導がもっと欲しい……。 （建築デザイン学科教員）
- 研究室内の卒論生を例として記述する。元気のない学生は、学校に来る時間が短く、来ても他のメンバーと話をすることが少ない。そのような学生は、コミュニケーション能力が低い上に向上しない事が多い。また、他のメンバーから就活などに関する有用な情報を共有できない事で不利な状況に至りやすい。結果、希望する企業からの内定を得られないこと、就職後も本人には大変厳しいと感じる環境で働かざるを得ない状況になる事が問題と考える。（コンピュータ科学科教員）
- 講義中に何をすることもなく、来るだけ来て寝てしまうなど、価値がないことをしている学生は気になります。（コンピュータ科学科教員）
- なぜ学校に来ているのかを、見出していない学生がいる。そのため、やる気がない。=元気のない学生となっているのではないか？（機械創造工学科教員）
- 再履修クラスの学生が、あまり学習支援センターを利用しません。質問に来てもあまり元気があると言えません。学力が心配です（学習支援センター教員）
- 褒められた経験があまりないという学生が結構いることに驚いています。自己肯定感の弱さが元気でないことの一つの理由に思われます。（基礎・教養教育部門教員）
- 一部の学生であるが、元気といえるが、廊下で平気で騒いだり、校舎内を駆け回ったりと「元気」の出し方を間違っている学生いる。また、ゲームやカードといった遊びに「元気」を向けすぎているように感じる。（TKK 助け合い連携センター教員）
- 常に一人である学生に問題点があると考えられる。学生に聞くと、一年時にグループが固まってしまう、後から別の学生が入りにくい状態になることが多いと聞く。B1F以外学生が自由に時間を使う場所がないことも原因と考える。（所属等匿名）
- 卒業研究で配属されている学生に比べると、1・2年次の学生は授業への集中度が低く、目的意識を見失っている学生がいるように思えます。（所属等匿名）
- アルバイト等の為に、学校で学生として余裕がないように見えるところがある。夜遅くまでで体も疲れているのでは。元気のない学生は指導しても何もせず動かない。（所属等匿名）
- 自分の知る限り、学内動向報告に掲載した中には、顕著な業績を上げた個人・団体があるものの、トータル件数は減少傾向にあります。2011年度は東日本大震災の影響により、大会や試合等が中止されるという、やむを得ない事情がありましたが、その後も尾を引いている可能性があります。一方、2012年度に学生支援課が取り扱ったトラブル案件は、過去に例をみない同時多発状態となりました。プライバシーや守秘義務の関係上、詳細は差し控えますが、個人的に感じた共通する課題を列記します。

1) 「生徒」を「学生」に変身させる必要があります。学部生と大学院生の中には、自らを「生徒」と呼ぶ学生が多数います。小学校は「児童」、中学校と高等学校は「生徒」、大学と大学院は「学生」であり、「従って生きる」のではなく「学んで生きる」のが本来の姿です。言動が中高生のままの方を学生にし、自らを「学生」と名乗れるよう、全学的な指導が必要であると感じています。

2) 学生のコミュニケーション能力向上が必要です。

- 「挨拶」ができない学生がいます。 → 「あいさつ運動」の啓蒙
- 「聞くこと」ができない学生がいます。 → 「傾聴法」の啓蒙
- 「自己主張」ができない学生がいます。 → 「I Message, Feedback」の啓蒙
※断ること、お願いすること、謝ること、褒めること
- 「怒られる」体験が少ない学生がいます。 → ハラスメント防止指針の制定・研修
※世代間の価値観の違いに配慮

3) トラブル案件になりやすい属性や状況には注意が必要です。

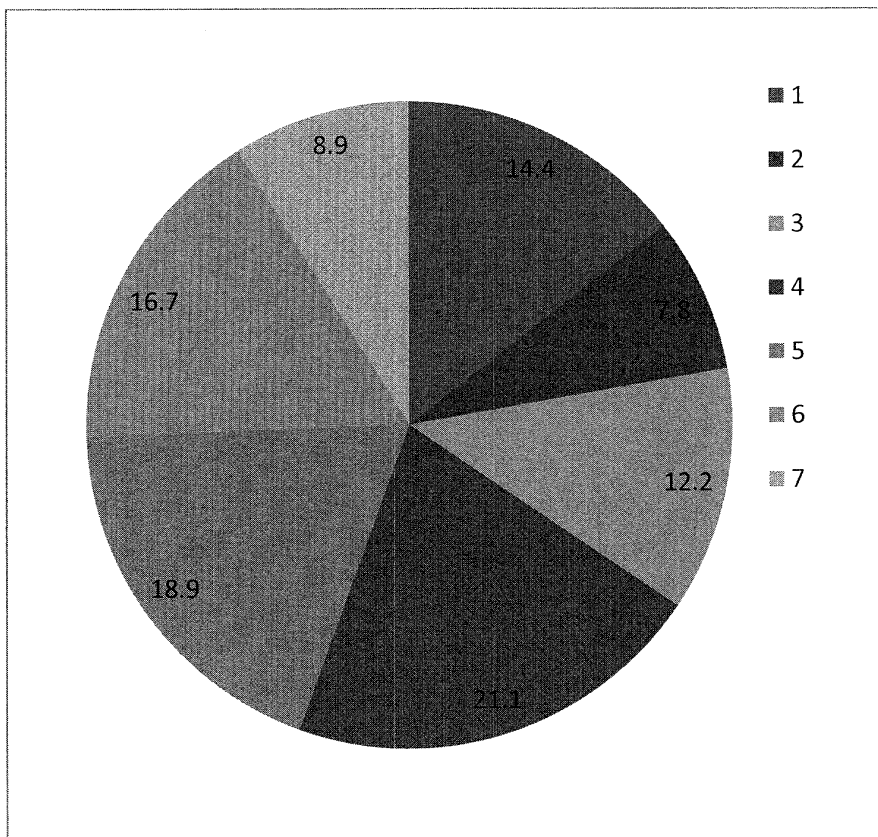
- 試験成績優秀な学生が研究室での実験や就職活動等で躓き、溜め込んだり、塞ぎ込む
- 中高生のような言動をする学生の悪ふざけ(素行不良の手前)
- 競争社会の弊害か、勝ち組や強者に無理矢理なろうとし、負け組や弱者を見下す
- 学生の保証人(親)の過干渉または無関心に起因する依存心や無気力
- 発達障害、またはそれに類する者
- 成績不振、家庭環境や経済事情が悪い、素行不良の学生(従来型の問題学生)(学生支援課職員)

- <学生の食生活・睡眠習慣について> 学生が元気であるために、身体にとって必要なエネルギー摂取・消費と休息は、とても大切なこと。勉学、クラブ・サークル、就活などで忙しくしていても効率的に身体に必要な休息をとり、必要な分のエネルギー摂取と、消費する身体作り・・・学生のうちにこういったことを身につけることで学業などにも多大な影響を与えることになります。健康相談室としては、学生定期健康診断を通して、また、健康相談室利用者へ、個別のかつ適切なアドバイスを心掛けています。※心(気)の問題もあると思いますが、食生活や睡眠習慣は心(気)にも影響を及ぼすため、今回は体のことを書かせていただきました。(健康相談室職員)
- 就活に力を注ぎたくても、アルバイトなどの影響で健康面に心配がある学生に出会います。実際、学生はアルバイトを月間何時間くらいやっているのでしょうか？成績との関連はいかがでしょうか？(就職支援職員)
- これも就職活動を通してですが、元気でないというより前向きでない学生の姿が目立ちます。世相を反映しているとも言え、一概に学生だけの問題とも言い切れませんが、物事を前向きに捉えるクセを身に付けてほしいと思っています。余談ですが、成功を続けることが幸せではなく、本当は現状を幸せと感じられる人が幸せで、そういう人が成長していけるのだと思います。(就職支援課職員)
- 元気な学生とそうでない学生の「差」が大きいように感じる場合があります。(入学広報部職員)
- 他人とのコミュニケーションを取るのが苦手な学生は元気がない子が多いと感じる。(入学広報部職員)
- このタイプの学生の元気が出るような仕掛けが必要だと感じます。(入学広報部職員)
- ゲームばかりしている学生を見かけると心配になる。悪いことをしているわけではないが、少し気になります。(入学広報部職員)

- 個人的主観で「元気な学生」を定義させていただきますと、以下の通りにつき、その逆の学生が「元気でない学生」と感じる。
 1. 気持ちの良い挨拶ができる。 ⇨ うつむき加減に話す、ぼそぼそ話す学生は更に暗く見える。
 2. 自ら進んで行動する。
 - a) 打ち込むものがある。(学業、課外活動、ボランティア活動、アルバイト等) ⇨ 研究室にも所属しておらず、部活やアルバイトもやらず、ただ自宅と大学の往復だけで交友関係に乏しい学生。
 - b) ボランティア精神に富んでいる。(利害関係が無しに、労力を惜しまない。) ⇨ 学内イベントの協力要請ですぐ「謝金」を要求する。アルバイトでないと参加しない。
 3. 健康的で血色がよく、身なりも小奇麗にしている。 ⇨ つめが真っ黒、髪がボサボサ、肩にはフケだらけで、ズボンからシャツがはみ出ている。就職活動のセミナーの際に指導していると思いますが1年次の段階から指導した方がよい。(国際交流センター職員)

4. 大学として、あるいは教職員側から、「学生の元気」という点からどのような取り組みや施策が必要だと考えられますか。(複数回答可)

- ① 部室やグラウンドなど施設、設備の充実
- ② 大学の施設等の利用方法についての周知
- ③ 活動予算の充実(大学、後援会などからの補助を含む)
- ④ 元気な学生の事例の周知や活動の報告・発表場所の充実
- ⑤ 活動などに参加していない学生への参加の働きかけ
- ⑥ 学生に対して勉学だけでなく大学生活を多彩にするような呼びかけなど、教員側からの働きかけ
- ⑦ その他



5. その他、この問題に関してお気づきの点やお考えをお書きください。

【回答】

- 重要な課題なので、学内的な議論が出来るとよいと思います。(学長)
- ①社会の最小単位である家庭での躰が行われていなかった。②外来者に対して、挨拶「おはようございます」、会釈、入出時、ドアノック、おはようございます。③挨拶されたら「必ず返す」こと。最も基本的なことだと思います。(機械システム工学科教員)
- キャンパスの立地条件も問題がありそうな気がします。本学に在籍する子は、通学時間が長く、施設が充実していても八王子校舎は遠すぎて、朝は早く通学できない、夜も遅くまでは居られない、新宿校舎は交通の便は最高によいものの、ビルであるために授業以外のキャンパスライフは何も無いといった、両極端の現象が起こっていると思います。(応用化学科教員)
- 前述のとおり、学生の「元気」とは何なのかが不明確である。設問4の選択肢からみて主として課外活動のことを考えているようだが、課外活動はあくまで学生が自主的に行うべきものであり、それについて教員が過剰に口出しすべき性質のものではない。本学のような工科系大学では、教えるべき内容の増加に伴い学生の多忙さに拍車がかかる傾向があり、カリキュラムや時間割の効率化が必要である。課外活動の活発化も、まずそのあたりを重点的に考えてみたらよいのではないだろうか。課外活動の重要性は理解するものの、やはり教員がもっとも積極的に考えるべきは正課活動であり、その部分でも学生たちが「元気」であることは重要である。当然ながら、学生たちのそのような意味での「元気」さは、しっかりした基礎学力に裏打ちされるものである。その意味で、日頃の教育・研究活動こそ、学生の元気をサポートするために我々がもっとも力を入れるべきことではないか。(電気システム工学科教員)
- 勉学に打ち込むことが元気につながる、というのがBESTと考えます。これを補充するものとして、部活・ボランティアなどが有用でしょうか。(建築学科教員)
- 学生の活動力が低下しているように感じる。そして、活動力の低下は自己表現力の低下に一因が有ると考える。グループ活動では自己の考えを他者に伝える行為が重要だ。しかし、この部分が不得手だとグループ活動を嫌うと考えるからである。よって、自己表現力を高める授業・授業方法の必要性を提案する。例えば「外国語クラス」程度の人数規模で「議論する授業」の設置を提案する。なお、「講義」ではなく「演習・実習」として行われることが重要である。追記：大学院の授業で後半を輪講にあてている。10人程度の受講生が互いの研究の進捗状況を講演し、これに対して質疑を行う。大学院生同士でありながらも「質疑が盛り上がらない」ことに落胆する。(建築学科教員)
- 教職員に元気がないと、学生も元気が出ない。父母の方々への周知、連絡、協議も必要と思われる。教職員に対して、大学が現在(社会の中で)置かれている状況の認識が大切であると考え。キャンパス(新宿・八王子)の魅力あるものにする工夫を早急に実施すべきであると考え。(建築学科教員)
- 学生の部活動(文系サークル、体育会に関わらず)について、4工大連携をはかることはできないでしょうか。4工大で練習場やグラウンドを確保する、コーチや監督の招聘、などの支援を行ってはどうでしょうか。勿論、それぞれの協会などが、連合軍を認めるかどうかは交渉が必要になるでしょうが、母数(学生数)が増えれば、必然的に活発になるように思います。…各部・各サークルの意向があり

ますから、簡単な話ではないですね。大学を挙げて行う恒例行事を設けては如何でしょう。運動会とか…。(建築学科教員)

- 元気のなさにも程度があり、中程度であれば、上記4で記されたような対策で改善は可能であると思われる。しかし高度に元気のない学生はそもそも全般的に意欲が無く、学校にも来ないので、「元気さ」を育てる事は大変困難である。どのような対策を取るべきかについては、大学が教育すべき学生の範囲をどう定めるによると思われる。一般企業と同様に、経済的原則を考慮して、ある程度元気な学生を範囲として定めたとする、高度に元気の無い学生は、そもそも入学させない仕組み(入試の点が良くても、意欲がない、不真面目などの学生を不合格にする)や、仮に入学しても早期に退学させる仕組みが必要と考える。一方、大学の社会的意義を考えて、高度に意欲の無い学生を含めて、意欲そのものの向上を含めて教育すべき範囲と考えるのであれば、その学生に対応するのにふさわしいスタッフを増員する必要があると考える。そのスタッフは、高度な専門的知識や研究能力は必要としない。元気の無い人を放っておけないような性格の持ち主で、話すだけで周りの人を元気にさせるようなパワーをもつ明るい性格を持ちながら、社会の厳しさや負の側面を伝えられる人材であるべきである。このような人材は、現存する私を含めた多くの専任教員とは対照的な点が多い事から、教員採用時の基準や教員の評価制度などを含めて抜本的な変革が必要と考える。(コンピュータ科学科教員)
- まず、なぜ元気がないか把握する必要があるのではないか。(機械創造工学科教員)
- 学生の空気は大変重要と思います。取りまとめ結果に期待します。(基礎・教養教育部門教員)
- 学習支援センターの学内周知が不足しています。学生への連絡不徹底が見られます。当センターのミッション、企画、活動、効果を教職員と学生により広く知らしめてください。(学習支援センター教員)
- 楽観するのはおかしいのですが、あまり悲観する必要はないのではないのでしょうか。(学習支援センター教員)
- 一般企業で仕事をして、数年ぶりに大学に戻ってみたが、一部の学生かもしれないが、大学生ではなく中高生のように見える学生が多いと感じる。たとえば、地下1階や校舎内で人目をはばからず、ゲームやカードゲームなどをしていて、大学生としてあるべき姿なのか考えさせられる。また、企業目線から考えるとやはり大学では、「考える」・「創り出す」・「専門を学ぶ」・「様々な立場の人とコミュニケーションを図る」といったことを十分経験した人物を採用したいと考えるのではないだろうか? 大学生としての「元気」をそういった「考える」・「創り出す」などといった大学で経験すべきことに向けてほしいと感じる。(TKK 助け合い連携センター教員)
- 卒業研究やゼミに比べて、授業中の元気(集中度)が少ないのは、低学年次の時に就職活動や卒業研究のイメージが確立できないからかも知れない。本学の今の入学前教育や初年次教育は、「今の勉強が将来役に立つ」ことをしっかり伝えているだろうかと自問しています。「工学院大学で学ぶ」とは、どうやって毎日を元気に過ごすことか具体的なモデルがあるといいのだと思います。元気な学生の事例を周知するのもよい方法だと思いますが、工学院大学(新宿と八王子にキャンパスのある工科系大学)を舞台にしたドラマを制作して公開してはどうでしょうか。(所属含む匿名)
- 何でもしてあげるのは良くないと思う。学生が活動したいと言ってきたときに予算・場所・アドバイスが出来るようにしておくのが良いのでは?(所属含む匿名)

- 学生の元気の前に、教職員が元気であること、それが学生にとって負担とならずに受け入れられることが必要かと思います。(学生支援課職員)
- 言いにくいですが、教職員の方々にも元気がないと感じられる人が多いように思います。(就職支援課職員)
- 就職支援業務を通じて感じるのは、教員の資質によって学生にずいぶん影響がでていると思います。元気な学生は、側に元気な教員がいるのではないのでしょうか？私達が想像している以上に、距離が近い教員からの影響が大きいと思います。(就職支援職員)
- 教職員も、お互いすれ違ったら、元気に挨拶したほうがよい。教職員から学生に挨拶することも大事。できれば、学生の名前も一緒に呼んであげられるようになれば大変良い。(名前を覚えてもらえる＝自分の存在を個人として認めてくれる人が学内にいる＝嬉しい・安心 ⇒その結果、所属意識が芽生え「愛校心」が自然に培われる。小さなことの積み重ねから学内コミュニケーションの結束を高め、ひいては「愛校心」を培い、積極進取な精神を養成することも必要だと感じます。(国際交流センター職員)

以上